たたき台

松田町第７次総合計画

基本構想・基本計画（素案）

目次

第１部　基本構想・基本計画 ····· 3

第１編　総論 ····· 4
第１章　総合計画策定の趣旨 ····· 5
第２章　松田町を取り巻く状況 ····· 7
第３章　町民の期待（町民アンケート調査結果等） ····· 21
第２編　基本構想 ····· 40
第１章　まちづくりの基本的な考え方 ····· 41
第２章　松田町が目指す将来像 ····· 42
第３章　基本目標 ····· 46
第３編　基本計画 ····· 52

第１部
基本構想・基本計画

第１編　総論

第１章　総合計画策定の趣旨

１．策定の意義

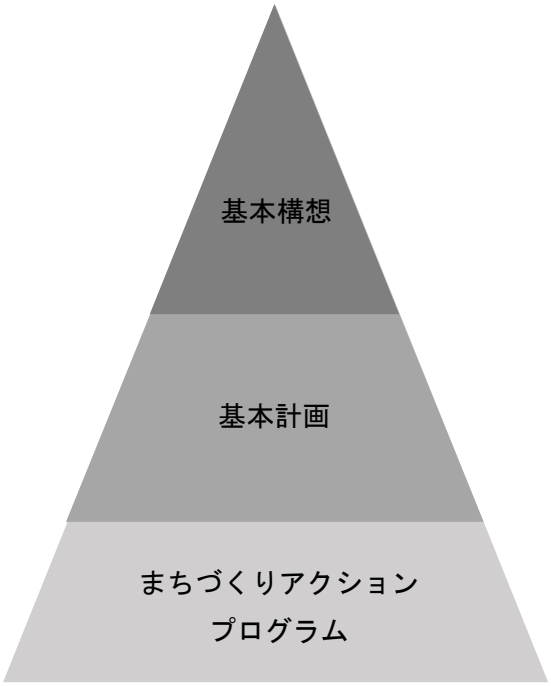
総合計画は、その地域全体の総合的・効率的な行財政運営を図るための基本となるものであり、まちの将来像と、計画の実現に向けた施策及び方向性を示すものです。

松田町では、平成 31(2019)年３月に、令和８(2026)年までを目標年次とした「松田町第６次総合計画」を策定し、基本構想の将来像にて「いのち“育み”　未来へ“ツナグ”　進化“つづける”　故郷」を掲げ、町民とともにまちづくりを進めてまいりました。

その間、少子高齢化による人口減少の進行やインフレ、原材料価格の上昇に伴う物価高騰、自然災害の頻発・激甚化など、本町を取り巻く社会経済情勢はめまぐるしく変化しており、町民の価値観も多様化しています。こうした急激な変化に適応し、持続可能で自立した基礎自治体としてのあるべき将来像を目指すまちづくりの指針を示すため、令和９(2027)年度から令和 16(2034)年度までの８年間の計画となる「松田町第７次総合計画」を策定します。



２．計画の構成と期間



●基本構想

松田町のまちづくりの最高理念であり、町の目指すべき将来像を明らかにするとともに、その実現に向けた基本目標を示すもの

●基本計画

基本構想で示した将来像や基本目標を実現するための施策を分野別に示すもの

●まちづくりアクションプログラム（前期）

基本計画で示した施策を達成するための具体的な事業を示すもの

	前期				後期			
	Ｒ９ (2027)	Ｒ10 (2028)	Ｒ11 (2029)	Ｒ12 (2030)	Ｒ13 (2031)	Ｒ14 (2032)	Ｒ15 (2033)	Ｒ16 (2034)
基本構想	→	→	→	→	→	→	→	→
基本計画	→	→	→	→	⇢	⇢	⇢	⇢
				後期計画にて見直し				
まちづくりアクションプログラム	→	⇢	⇢	⇢	⇢	……		
					３カ年を計画期間として毎年見直し			

第２章　松田町を取り巻く状況

１．松田町の概況

(１)位置・地勢

・松田町は、神奈川県の県西部、足柄上郡に位置し、周辺を秦野市、大井町、山北町、開成町と接しています。
・足柄平野の中心として古くから交通の要衝として栄え、足柄上地域をはじめとする県西部地域の北の玄関口として機能しています。
・北は丹沢大山国定公園・西丹沢の山々、南は酒匂川流域の豊穣な足柄平野が広がります。
・酒匂川・川音川・中津川などの河川や山々の緑、富士山の眺望など、豊かな自然環境に恵まれています。
・町域面積は、37.75 平方キロメートルで約 77.1％を山間地が占めています。
・東京都心部から約 70 ㎞で、東名高速道路(大井松田ＩＣ)、国道 2 路線 (246 号、255 号)や小田急電鉄(新松田駅)、ＪＲ御殿場線(松田駅)の鉄道路線を有し、交通アクセスの利便性に優れています。
・町域は、鉄道駅を中心とした松田地区と、山間部に位置する寄地区の大きく２つの地区で構成されています。

松田町の位置を示した地図

（２）歴史

平安・鎌倉	相模国松田郷にて、波多野氏が「松田」姓を名乗る。
江戸	小田原大久保氏が町全域を領有する。
明治	４(1871)年　廃藩置県に伴い小田原県(のちの足柄県)に移管する。 ８(1875)年　寄地区の７カ村が合併して「寄村」になる。 ９(1876)年　足柄県が廃止され、足柄上地区が神奈川県に編入する。 13(1880)年　足柄上郡役所が松田惣領へ移り、上郡の中心地となる。 22(1889)年　東海道線(現：御殿場線)松田駅が開業する。 松田惣領、松田庶子、神山村が合併して「松田村」が誕生する。 42(1909)年　町制を施行して「松田町」となる。
大正	12(1923)年　関東大震災により壊滅的な被害を受ける。
昭和	２(1927)年　小田急線が開通し新松田駅が開業する。 ９(1934)年　丹那トンネルが開通する（現：東海道線が開通する)。 25(1950)年　県立足柄上病院が発足する。 30(1955)年　松田町と寄村が合併し、新制「松田町」が誕生する。 46(1971)年　「奴振り」が町無形文化財に指定される。 52(1977)年　第１回寄若葉まつりが開催される。 53(1978)年　第１回まつだ観光まつりが開催される。 54(1979)年　町の花を「コスモス」、町の木を「ナンテン」に決定する。 56(1981)年　「寄祭囃子」を町無形文化財に指定する。
平成	元(1989)年　町民憲章を制定する。 町の鳥を「セグロセキレイ」に決定する。 町公式キャラクターを「奴さん」に決定する。 ９(1997)年　松田山「ハーブガーデン」が竣工する。 健康福祉センターが竣工する。 11(1999)年　第１回まつだ桜まつりが開催される。 19(2007)年　台風９号が直撃し、十文字橋が落橋する。 21(2009)年　町の樹を「サクラ」に決定する。 26(2014)年　「消滅可能性都市」に指定される。 30(2018)年　松田町自治基本条例を制定する。
令和	３(2021)年　ＳＤＧｓ未来都市に選定される。 松田小学校新校舎（木造３階建て）が竣工する。 ５(2023)年　「消滅可能性都市」から脱却する。 ６(2024)年　寄みやま運動広場が人工芝生化する。 ７(2025)年　子ども・子育て応援条例を制定する。

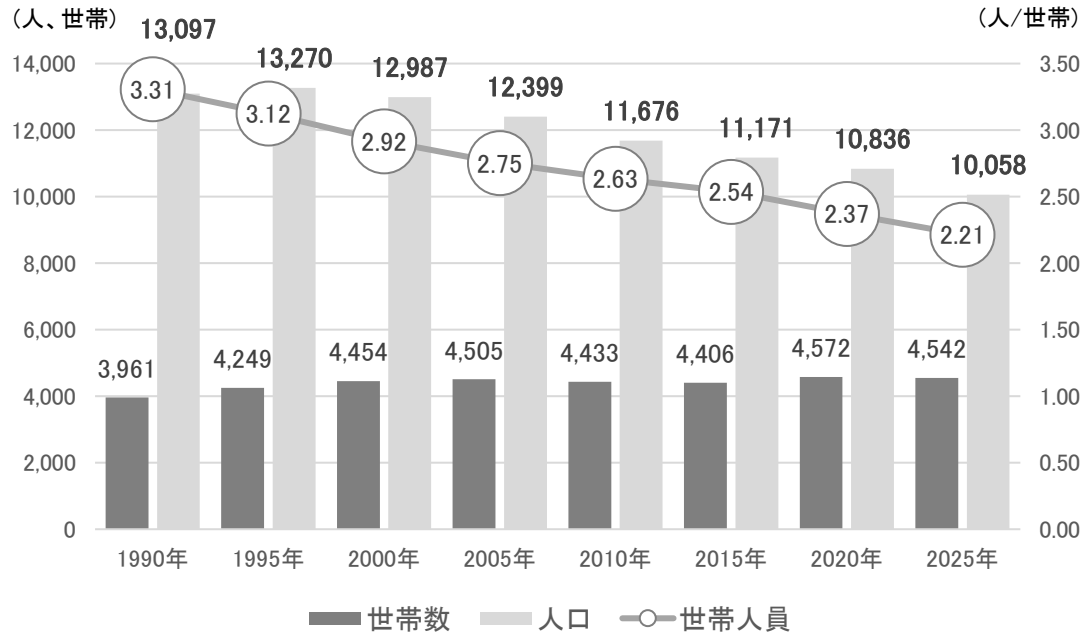
二次元コードにて詳しく紹介されている町公式サイトを掲載予定。

（３）人口・世帯等

①総人口・総世帯数

・国勢調査人口では、平成７（1995）年の 13,270 人をピークに減少しており、令和７（2025）年には 10,058 人となっています。

・世帯数は平成 17（2005）年に 4,505 世帯に達したもののその後は横ばいとなっています。このため、一世帯あたりの人口は平成２（1990）年の 3.31 人から令和７（2025）年には 2.21 人まで減少しており、核家族化、単身世帯や少人数世帯の増加がうかがえます。



人口・世帯の推移（国勢調査・平成２（1990）年～令和７（2025）年）

②年齢別人口

※令和７年度国勢調査結果の公表待ち

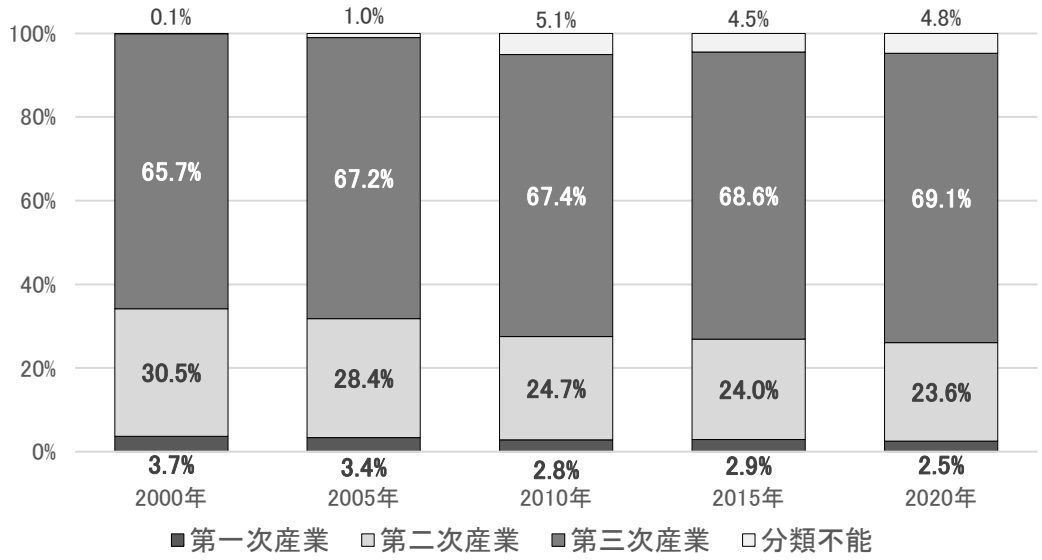
③地区別人口

※令和７年度国勢調査結果の公表待ち

（４）産業

①産業別就業者数

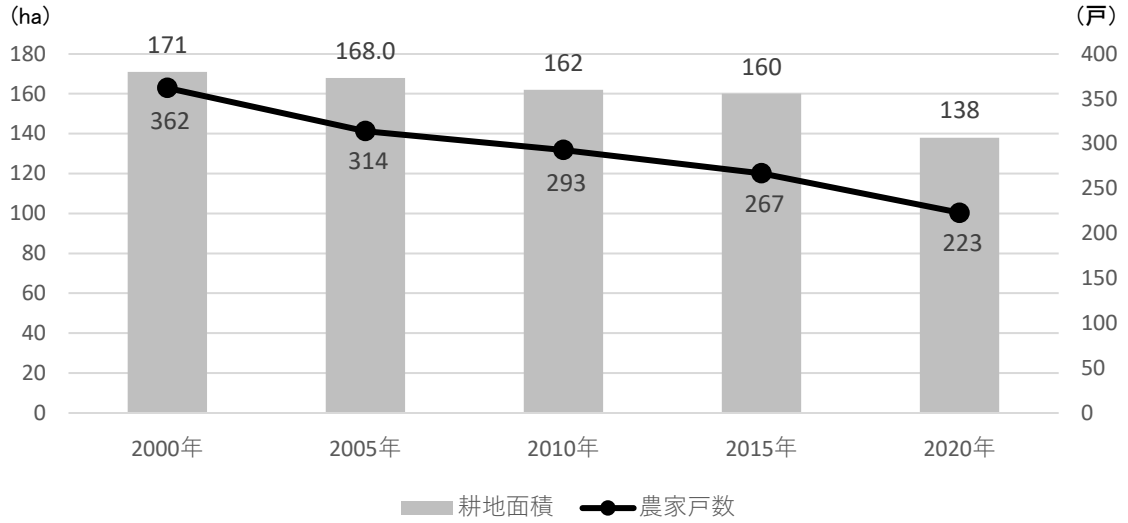
・国勢調査から松田町の産業別就業者数をみると、農林漁業等の第一次産業が減少する一方、サービス業等の第三次産業が増加する傾向が続いており、令和２(2020)年には69.1%が第三次産業に従事しています。



産業別就業者割合の推移(国勢調査・平成12(2000)年～令和２(2020)年)

②農業

・農業の耕地面積、農家戸数ともに減少傾向にあり、平成 12(2000)年から令和２(2020)年にかけて農家戸数は４割近く減少しています。



耕地面積と農家戸数の推移(農林業センサス・平成 12(2000) 年～令和２(2020)年)

・農業産出額をみると、平成 26(2014)年から平成 29(2017)年にかけて、主に果実の伸びにより増加していましたが、農業従事者の高齢化や担い手不足、収益性が低いことによる離農など様々な要因により、平成 30(2018)年以降、農業産出額は大きく減少しましたが、令和５(2023)年以降はほぼ横ばいとなっています。

	合計	米	野菜	果実	工芸農作物
2014年	150	10	30	90	10
2015年	**170**	10	30	**110**	10
2016年	**180**	10	30	**120**	10
2017年	**200**	10	30	**140**	10
2018年	160	10	20	110	10
2019年	120	10	10	80	10
2020年	110	10	10	70	10
2021年	110	0	10	**80**	10
2022年	**140**	0	10	80	10
2023年	140	0	10	80	10

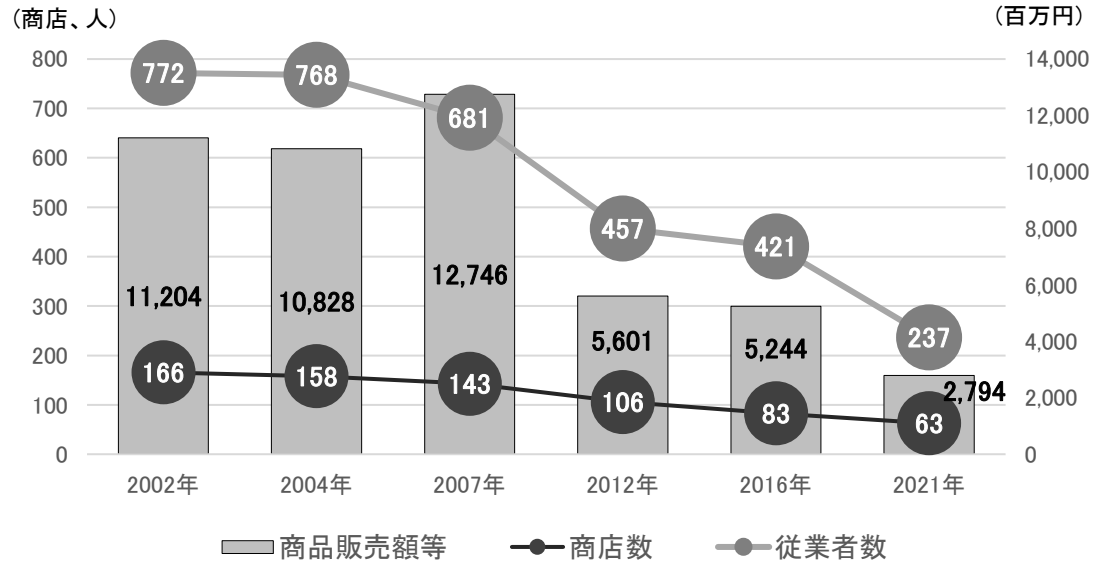
※前年と比較して増加した場合は太字、前年と比較して減少した場合は網掛けで示しています。

農業産出額(推計)の推移(農林水産省　市町村別農業産出額・平成 26(2014)年～令和５(2023)年)

③商業

・平成 19(2007)年から平成 24(2012)年にかけて商店数、従業者数、商品販売額等ともに大きく減少しています。これは統計調査が商業統計から経済センサスに変わり、調査方法等の違いから結果として集計対象等が異なっていることも影響していると考えられます。

・平成 24(2012)年以降も減少傾向は続いており、平成 28(2016)年から令和３(2021)年にかけても大きく減少しています。これは、コロナ禍が影響していると考えられます。

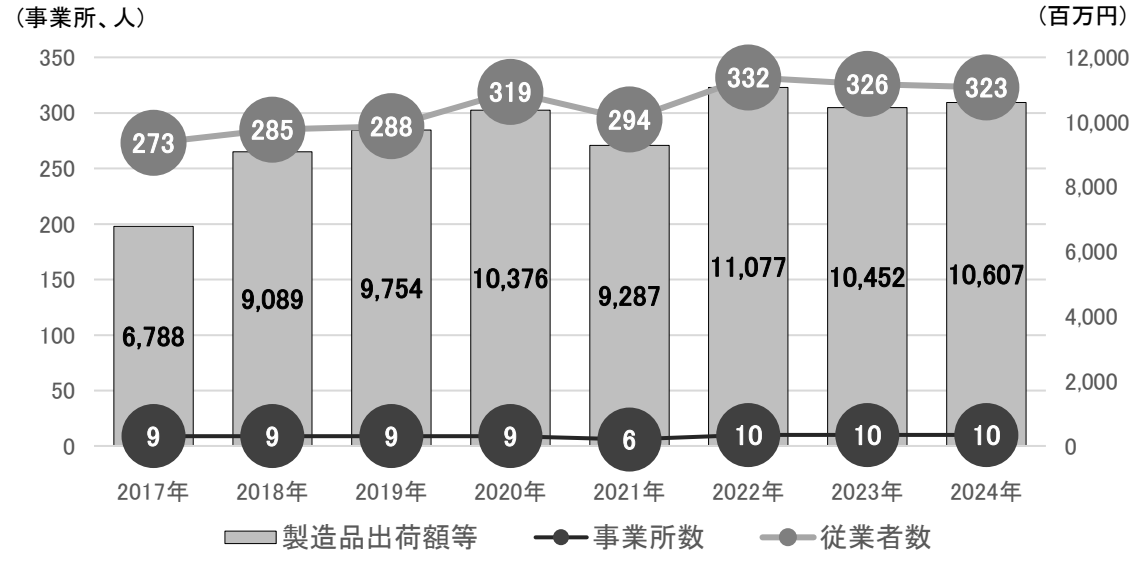


商品販売額等の推移(商業統計・平成 14(2002)年～平成 19(2007)年、
経済センサス・平成 24(2012)年～令和３(2021)年)

④工業

・令和２(2020)年までは製造品出荷額等が増加していましたが、令和３(2021)年には事業所数、従業者数とあわせて減少しました。これはコロナ禍が影響していると考えられます。

・調査が変わった令和４(2022)年以降はいったん増加した後、ほぼ横ばいとなっています。



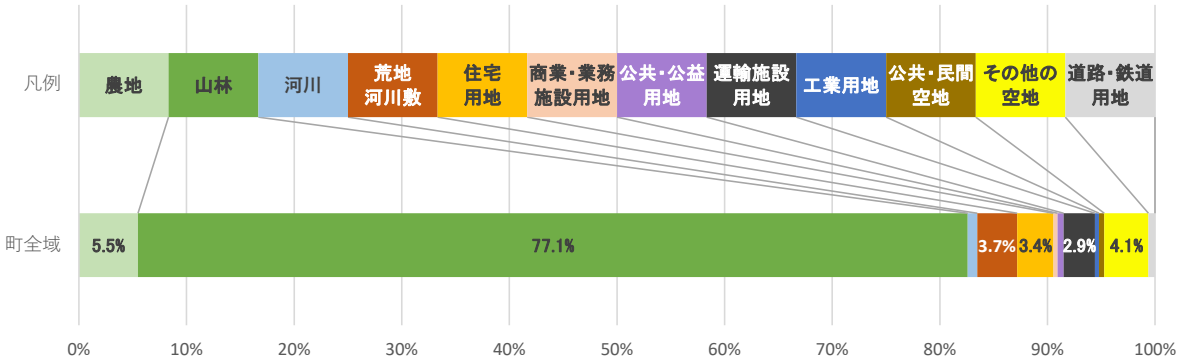
製造品出荷額等の推移(工業統計・平成 28(2016)年～令和３(2021)年、
経済構造実態調査・令和４(2022)年～令和６(2024)年)

（５）土地利用・都市基盤等

①土地利用

・「山林」が 77.1%、「農地」が 8.5%と自然的土地利用が土地利用の約８割となっています。

・都会的土地利用としては、「住宅用地」が 3.4%、「公共・公益用地」が 0.6%、「商業・業務用施設用地」及び「工業用地」は 0.4%など、利用可能な面積が限られている状況です。

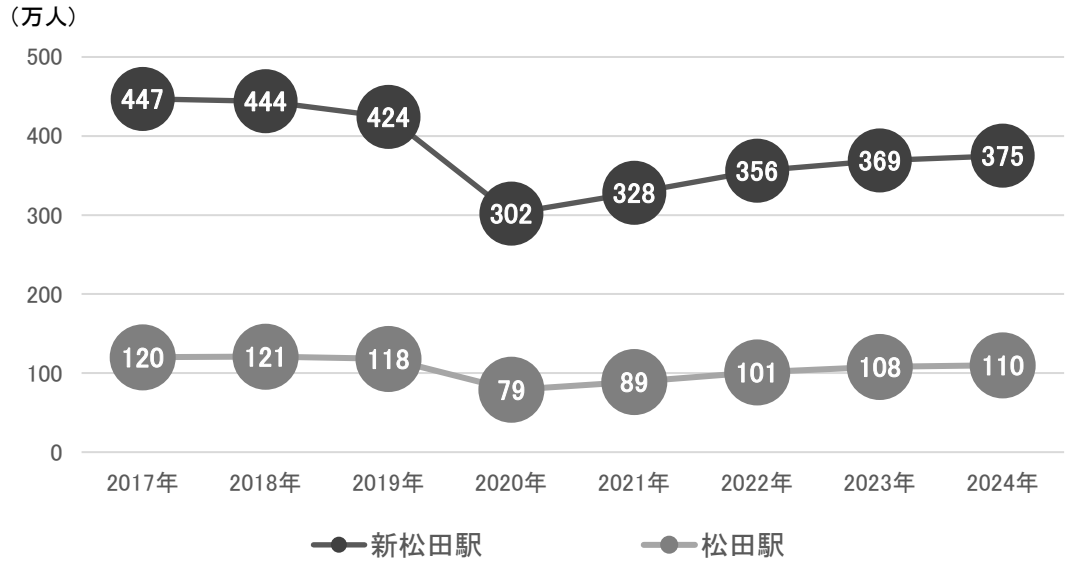


土地利用現況の割合（都市計画基礎調査結果・令和２(2020)年）

②交通

・松田町には小田急小田原線新松田駅と JR 御殿場線松田駅があります。

・年間の鉄道乗車人員は、令和２(2020)年度にコロナ禍の影響を受け大きく落ち込み、その後、回復傾向にありますが、コロナ禍以前の水準に戻っていない状況です。



鉄道乗車人員の推移(神奈川県勢要覧・平成 29(2017)～令和６(2024)年)

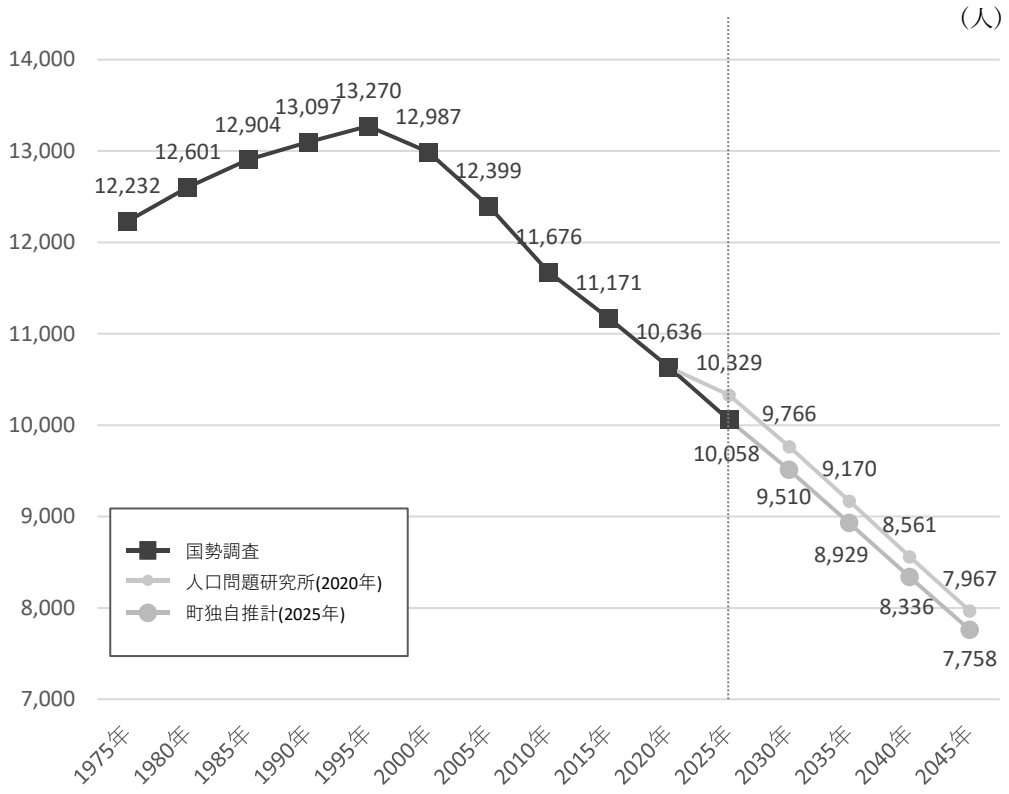
（６）将来人口の見通し

・令和２(2020)年国勢調査人口を基準とした『日本の地域別将来推計人口』(令和５(2023)年推計)を踏まえ、令和７(2025)年の最新値を基に町独自で行った将来人口の実情は次のとおりです。

・自然増と社会増に支えられて順調に増加していた人口は、平成７(1995)年のピークを境にして減少傾向に転じ、現在は自然減と社会減が同時に進行しています。

・平成 22(2010)年から平成 27(2015)年にかけて、減少はやや緩やかになるものの、その後の再び減少率が大きくなっていくことが予測されています。

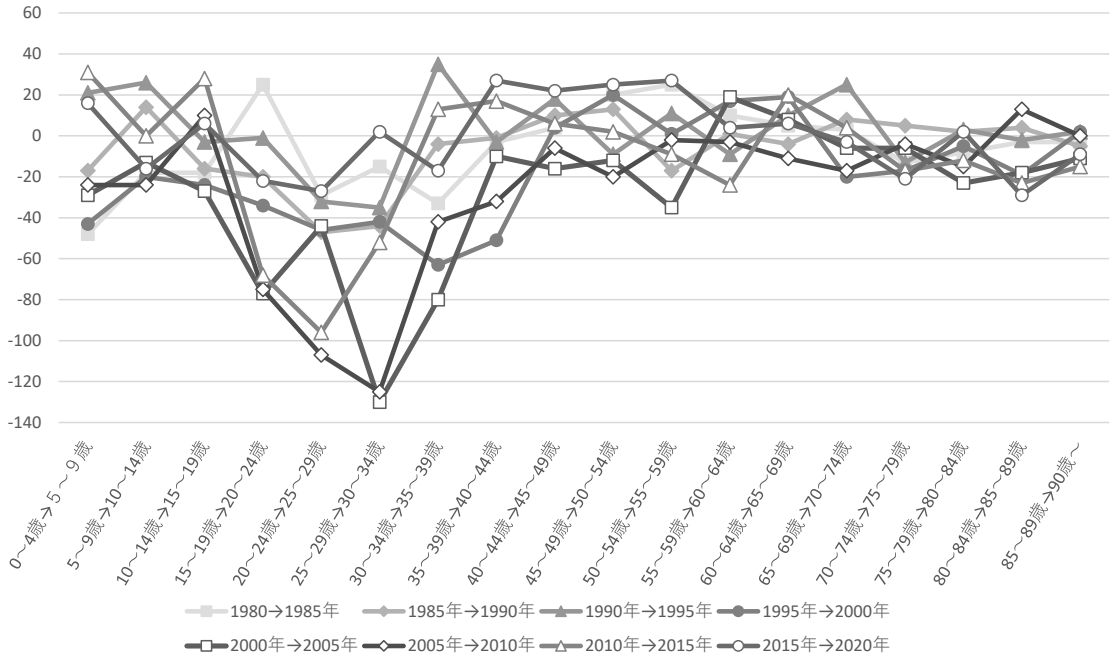
・国立社会保障・人口問題研究所の推計を基に町独自で行った推計によると、令和22(2040)年における本町の総人口は 8,336 人まで減少することが予測されています。



『日本の地域別将来推計人口』（令和５(2023)年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

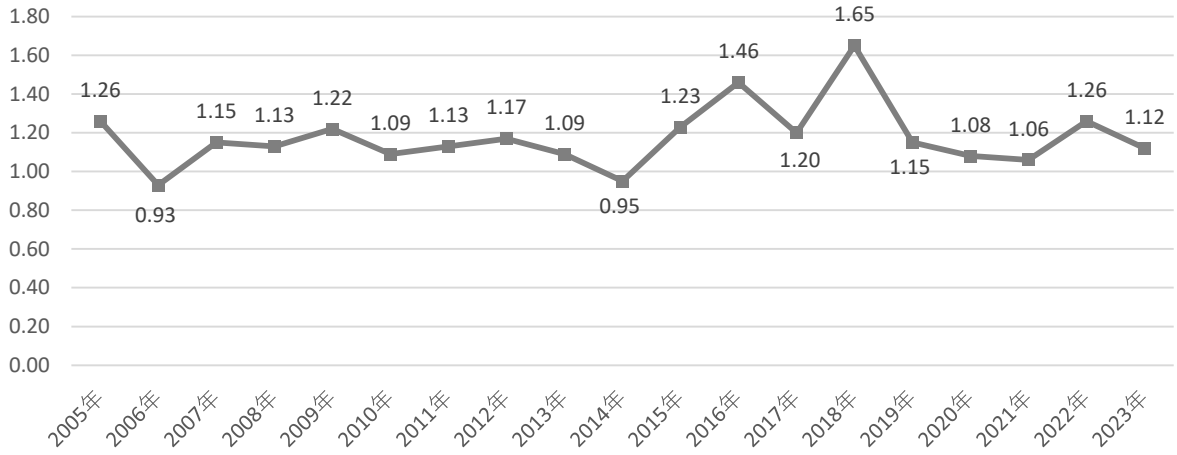
※令和７(2025)年以降は町独自の推計とする

・年齢別人口動態によると、特に出産・子育てをする年代である若年層の人口流出は、以前と比較すると改善しつつあるものの、依然として流出傾向にあり、少子化に拍車をかけていることに加え、急速な高齢化の進行により、死亡者の増加に伴う自然減が見込まれていることが人口減少の主な原因だと考えられます。



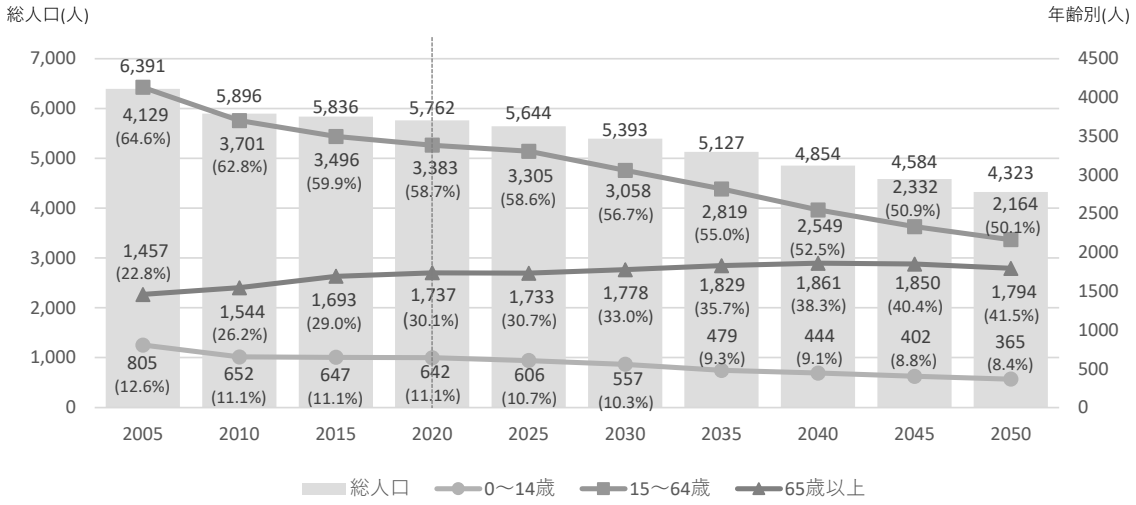
『年齢別人口動態』　（国勢調査　平成２(1990)年～令和２(2020)年）

・合計特殊出生率については、平成 26(2014)年から平成 30(2018)年にかけて大幅な増加傾向にあったものの、その後減少傾向が続いました。令和４(2022)年に一度増加したものの、令和５(2023)年には再び減少と、増加傾向には転じ切っていない状況です。

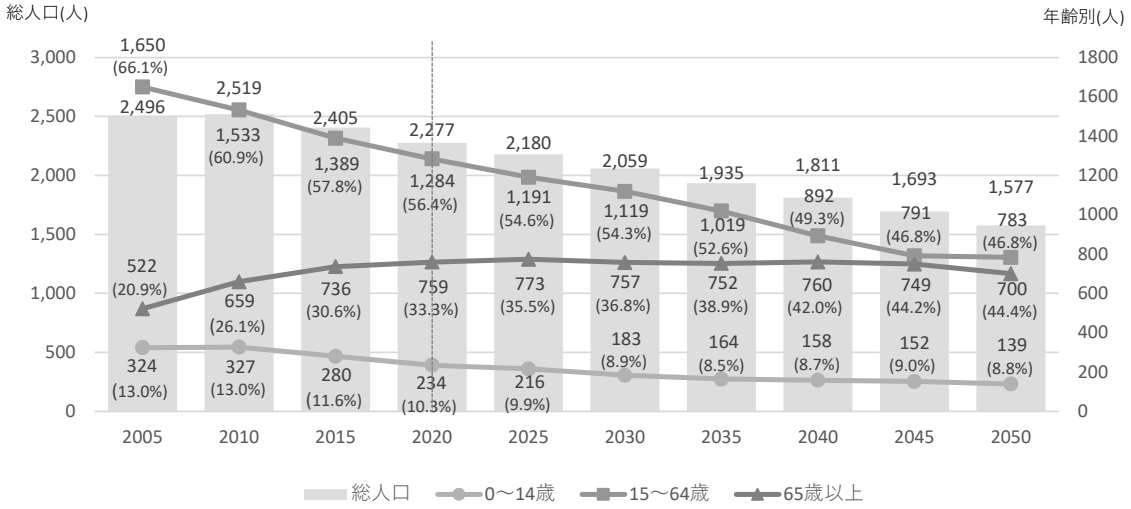


『合計特殊出生率』　（神奈川県衛生統計年報　平成７(2005)年～令和５(2023)年）

・地区別の将来推計によると、松田惣領と松田庶子については、0～14 歳と 15～64 歳は人口・割合ともに減少していく一方、65 歳以上は人口・割合ともに増加していくと予測されています。
・神山については、0～14 歳の人口は緩やかに減少していきますが、割合は微増・微減を繰り返しながらほぼ横ばいの状態が続き、15～64 歳は人口・割合ともに減少していきます。一方、65 歳以上の人口は 2030 年をピークにその後減少に転じますが、割合は 2045 年まで増加していくと予測されています。
・寄については、0～14 歳の人口は緩やかに減少していきますが、割合は微増・微減を繰り返しながらほぼ横ばいの状態が続きます。15～64 歳の人口は急激に減少していきますが、割合は 2040 年を境目に微増・微減を繰り返しながらほぼ横ばいの状態が続きます。65 歳以上の人口は 2025 年をピークにその後減少に転じますが、割合は 2040 年まで増加していき、その後減少に転じます。
・特に寄では 65 歳以上の増加が著しく、令和 7 年以降は、地域の人口の半数以上が 65 歳以上である限界集落になると予測されています。



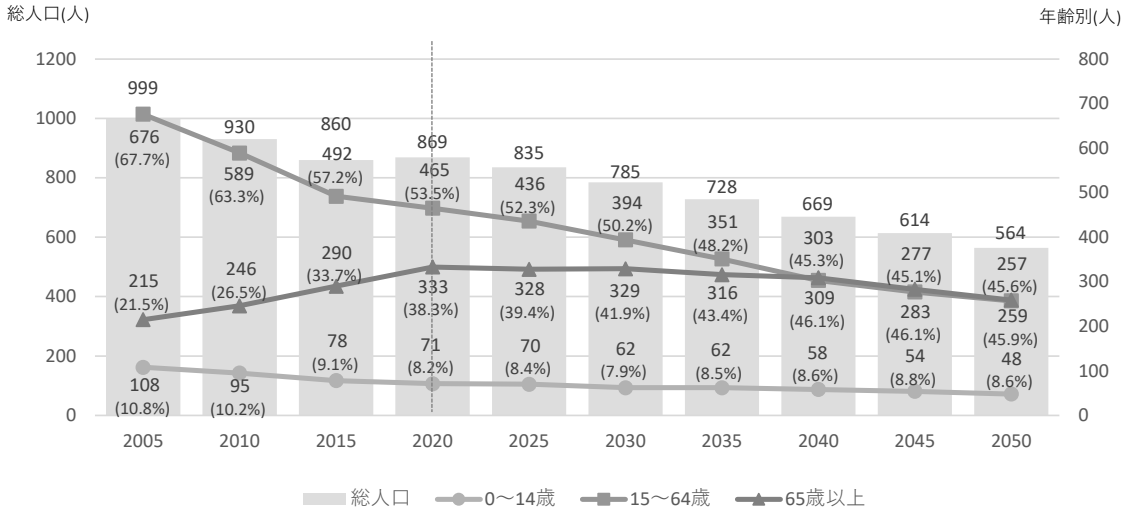
地域別人口・年齢３区分別人口の推移と将来推計（松田惣領）
（国勢調査 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計
（令和５(2023)年３月推計））



地域別人口・年齢３区分別人口の推移と将来推計（松田庶子）

（国勢調査 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計

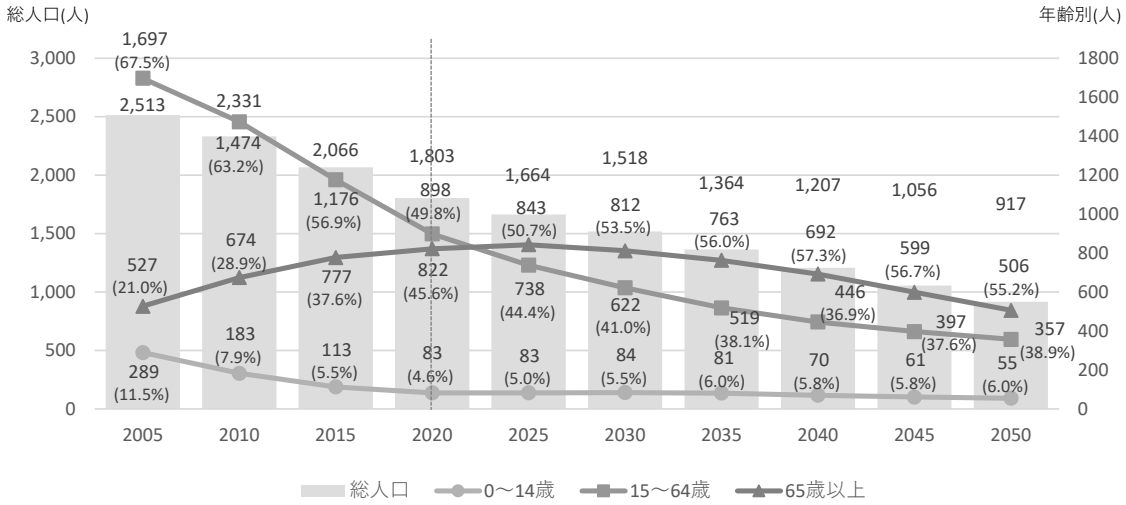
（令和５(2023)年３月推計））



地域別人口・年齢３区分別人口の推移と将来推計（神山）

（国勢調査 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計

（令和５(2023)年３月推計））



地域別人口・年齢３区分別人口の推移と将来推計（寄）

（国勢調査 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計

（令和５(2023)年３月推計））

２．社会情勢

（１）少子高齢化による人口減少の進行

・日本の総人口は長期の減少過程に入っており、令和 38(2056)年には１億人を下回る 9,965 万人になると推計されています。

・高齢化率(総人口に占める 65 歳以人口の割合)は増加が続く一方、少子化の影響により生産年齢人口(15 歳～64 歳)の割合は減少し、令和７(2025)年における高齢化率は 29.4%(3,622 万人)、生産年齢人口の割合は 59.7%(7,353 万人)になると推計されています。

・本町は、令和２年の調査結果において、令和６(2024)年に消滅可能性都市から脱却したものの、特に若年層の人口流出が進んでおり、そうした状況が少子高齢化を加速させています。また、各地域において自治会等の人員不足が続くなどの課題も生じています。

（２）災害の頻発化・激甚化

・近年、世界的な気候変動等の影響により、全国各地で大雨や猛暑をはじめとした気象災害が頻発しています。

・発生確率が年々高まっている首都直下型地震や南海トラフ地震等の巨大地震、富士山の噴火等への対策が喫緊の課題となっています。

・本町においては、南海トラフ地震防災対策推進地域、富士山火山避難基本計画の第５・６次避難エリアに指定されていることから、町民の命を守るため、日頃からの備えと一人ひとりの意識の強化が求められています。

（３）ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進

・少子高齢化による人口減少の進行に伴う労働力不足や、コロナ禍を経たことによる生活様式の変化、ワークライフバランスの実現に向けた働き方改革の推進などを背景に、デジタル技術の活用による生産性の向上や業務効率化が推し進められています。

・国が定める自治体ＤＸ推進計画においては、「行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性を向上させること」、「業務効率化を図り、職員の負担軽減とあわせて、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げること」、「ＤＸ化推進にあたっては、住民とその意義を共有しながら進めていくこと」が求められています。

・本町においては、サービスのデジタル化を進めるとともに、従来の紙媒体等の対応を行うことで、多様な町民ニーズに幅広く応え、誰一人取り残さないサービスを提供する必要があります。

（４）公共施設・社会インフラの老朽化

・日本の社会資本は高度経済成長期に集中的に整備されたため、今後 20 年間で建設後 50 年を経過する施設の割合が加速度的に高くなる見込みです。

・改修や大規模修繕の時期を一斉に迎えることによる費用負担の増大などが懸念されています。

・本町においては、将来の人口動向や人口構成、町民ニーズの変化を踏まえた公共施設の最適化や、社会情勢の変化に対応した、効率的・効果的な公共施設等の整備及び管理運営が求められます。

（５）価値観やライフスタイルの多様化

・社会の成熟に伴い、人々の価値観やライフスタイルが多様化し、家族のあり方、結婚や性に対する考え方、人と人の関係性が大きく変化したことで、行政だけでは対応しきれないほどの町民のニーズの多様化や地域で互いに助け合うという意識の希薄化を招いています。

・本町においては、年齢、性別、国籍、文化・習慣、障害の有無などに関わらず、誰もが個人として尊重され、地域でお互いに支え合いながら活躍できる環境が求められます。

（６）ＧＸ（グリーン・トランスフォーメーション）の推進

・地球温暖化による環境問題は、世界的な危機として認識されており、地球の表面温度の大幅な上昇や海面温度の上昇が進んでいます。

・近年の国際的なカーボンニュートラルへの潮流等を背景に、国は「グリーン成長戦略」に基づいて経済・社会・産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させ、エネルギーの安定供給・経済成長・排出削減の同時成長を目指す「ＧＸ（グリーン・トランスフォーメーション）」を進めています。

・本町においては、「松田町ゼロカーボンシティ宣言」を表明しており、この宣言のもと、環境に優しいまちづくりとともに、豊かな自然の活用や官民連携により、環境への負荷を抑えつつ、町民の暮らしやすさ・生産性を高める、持続可能で効果的な取組が求められています。

（７）子どもを取り巻く環境の変化

・近年、子どもを取り巻く環境は、少子化や核家族化、地域コミュニティの希薄化などにより大きく変化しています。ヤングケアラーやいじめ、不登校といった困難を抱える子どもの増加に伴い支援の必要性が高まる一方、育児のワンオペ化が進み、保護者の精神的・肉体的負担の深刻化も課題となっています。

・共働き世帯が全体の約 7 割を占めるなか、保育園や延長保育、学童などを利用する子どもが増加傾向にあります。

・本町においては「チルドレンファーストのまちづくり」を掲げ、結婚・妊娠・出産・子育てを切れ目なく支える支援体制の構築や、子どもたちがふるさとへの愛着と時代に求められる能力を身につけられる教育の推進が求められています。

第３章　町民の期待（町民アンケート調査結果等）

計画策定にあたって、まちづくりに対する町民の声を計画に反映していくため、「松田町第７次総合計画策定のための町民アンケート調査」（令和７(2025)年 11～12 月実施、以下「町民アンケート」と略す）、職員アンケート、中学生アンケート、中学生ワークショップ、まちづくり団体アンケート、タウンミーティングを実施しました。

それぞれの概要や主な結果は以下の通りです。

１．町民アンケート

（１）実施概要

今回実施した町民アンケートでは、まちづくりの主役である町民の皆さんの率直な声をお聞きするため、16 歳以上の町民の方から無作為に 3,000 人を抽出して、郵送配布にて実施しました。

今回の調査では、回答者が回答しやすい方法を選択できるようにし、回収率を向上させるため、調査方法を郵送と Web の２パターンとしました。

調査対象	町内在住の 16 歳以上の方
調査時期	令和７(2025)年 11 月～12 月
調査方法	郵送による配布、郵送回収もしくは Web 回答。
主な調査項目	回答者自身のことについて 松田町の定住に関する考えについて 松田町のまちづくりについて これからの松田町について 松田町の行財政について まちづくりへの提言
配布数	3,000 票
有効回収表	1,334 票（郵送：885 票　Web 回答：449 票）
回収率	44.5%

回収率の信頼度について

調査時点の松田町の人口「10,051」人に対し、回答の信頼度 95%を得るために必要なサンプル数は「332」です。

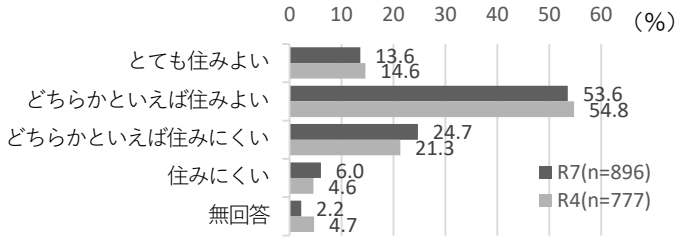
今回の調査では「1,334」票の回答を得ているため、信頼度を満たしています。

（2）まちの住みよさ

７割近い人が松田町は〈住みよい〉と回答しており、豊かな自然環境に恵まれていることや、交通の便の良さを住みよい理由として挙げています。

一方で、〈住みにくい〉と回答した人からは、商業施設の不足や日常の買い物の不便さを指摘する声が多くなっています。

■住みよさ



※「とても住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」⇒『住みよい』
「住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」⇒『住みにくい』　として表記

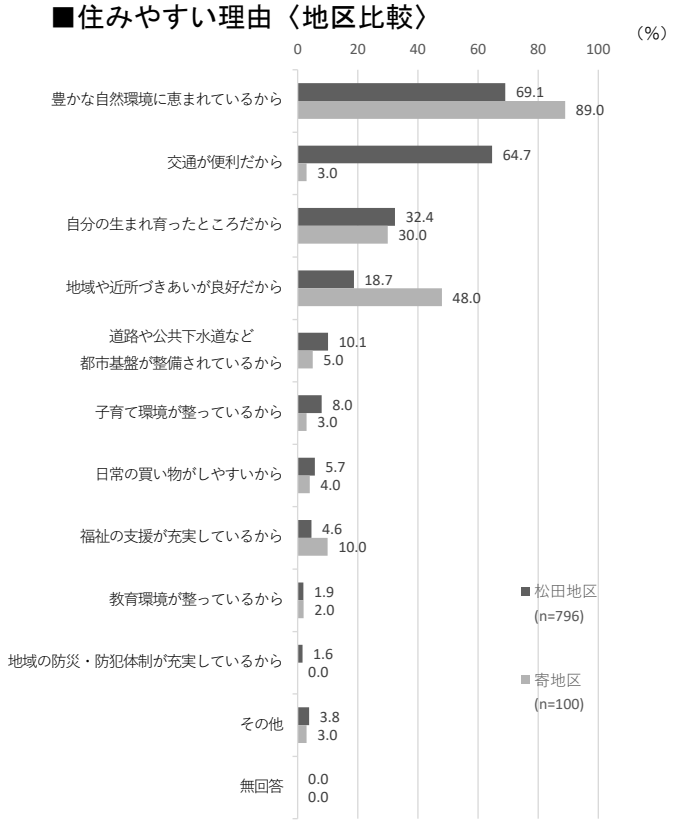
【松田地区】

松田地区（松田惣領・松田庶子・神山）では、70%が〈住みよい〉と回答しており、理由としては、「豊かな自然環境に恵まれているから」や「交通が便利だから」を挙げています。一方、〈住みにくい〉理由として「スーパーマーケット」などの大型店舗や専門店などがないなど魅力がないから」や「町内で日常の買い物ができないから」を挙げています。

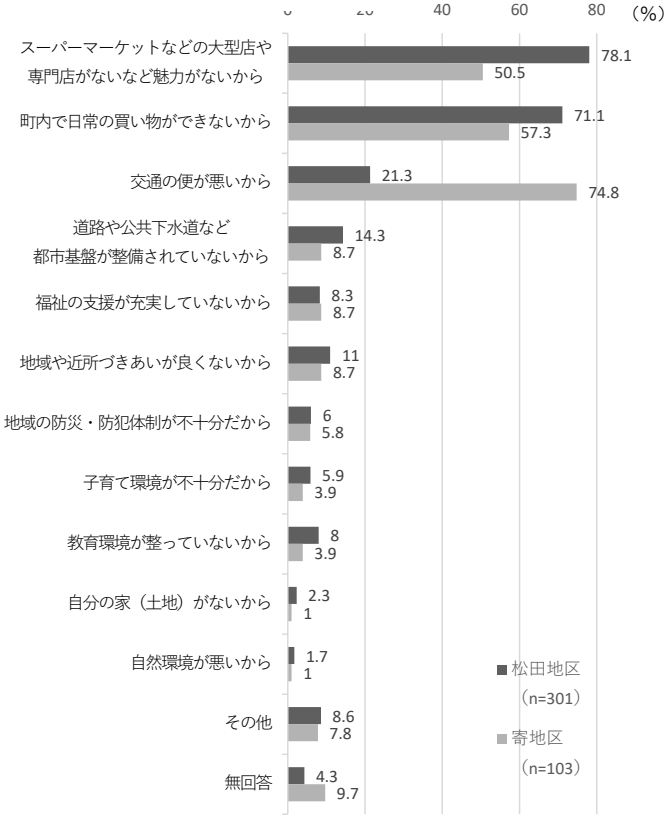
【寄地区】

寄地区では、50%が〈住みにくい〉と回答しています。〈住みよい〉理由として「豊かな自然環境に恵まれているから」や「地域や近所付き合いが良好だから」を挙げている一方、〈住みにくい〉理由として「交通の便が悪いから」や「町内で日常の買い物ができないから」を挙げています。

■住みやすい理由〈地区比較〉



■住みにくい理由〈地区比較〉

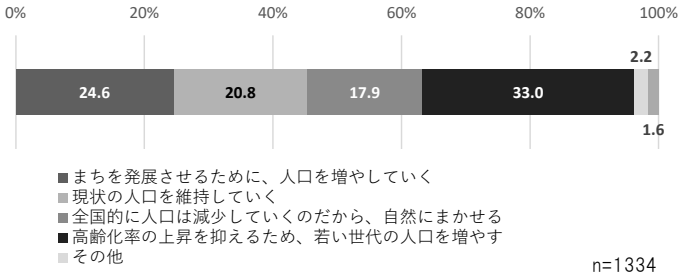


（3）将来の人口

将来人口の希望については、「高齢化率の上昇を抑えるため、若い世代の人口を増やす」が最も多く 33.0%、「まちを発展させるために、人口を増やしていく」が次に多く 24.6%と、半数以上が人口を増加させるべきだと回答しています。

また、人口を増加させるのに効果的な取組として最も多いのは「買い物の利便性の向上」、次いで「働く場所の確保」となっていますが、人口を増加させるべきと回答した人は、「住宅・宅地の整備」と回答した人の割合が多いのが特徴です。

■将来の希望



【松田地区】

松田地区では、将来人口の希望として「高齢化率の上昇を抑えるため、若い世代の人口を増やす」が最も多く 32.7%、「まちを発展させるために、人口を増やしていく」が次に多く 25.7%となっています。

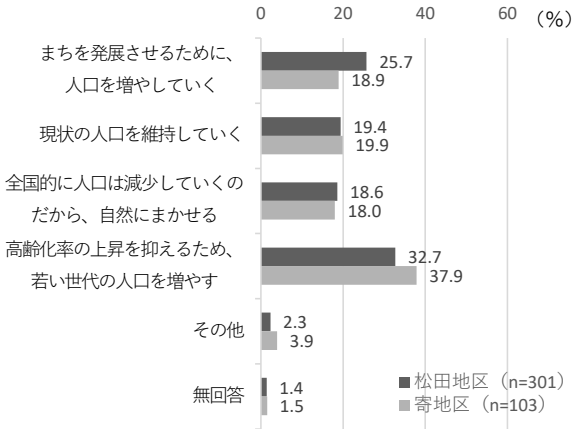
効果的な人口増加策としては「買い物の利便性の向上」が最も多く 77.4%、「働く場所の確保」が次に多く 41.3%、「医療・福祉関係の充実」が 35.8%となっています。

【寄地区】

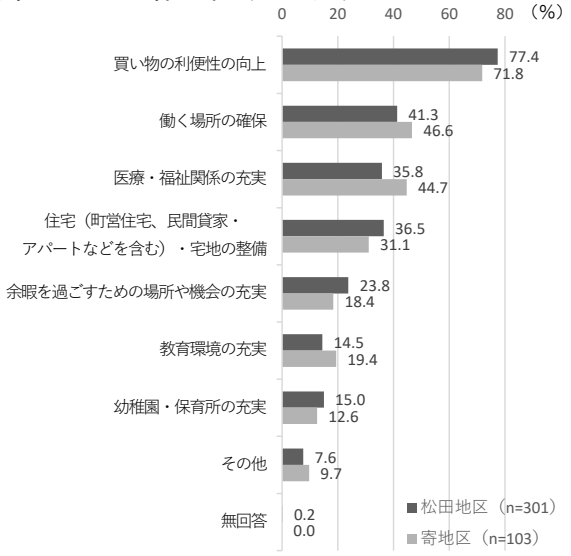
寄地区では将来人口の希望として「高齢化率の上昇を抑えるため、若い世代の人口を増やす」が最も多く、松田地区を 5.2 ポイント上回る 37.9%となっている一方、「現状の人口を維持していく」が次に多く 19.9%となっています。

効果的な人口増加策では松田地区と同様「買い物の利便性の向上」が最も多く 71.8%である一方、次いで「働く場所の確保」が 46.6%、「医療・福祉関係の充実」が 44.7%と松田地区を上回っています。

■将来の希望〈地区別〉



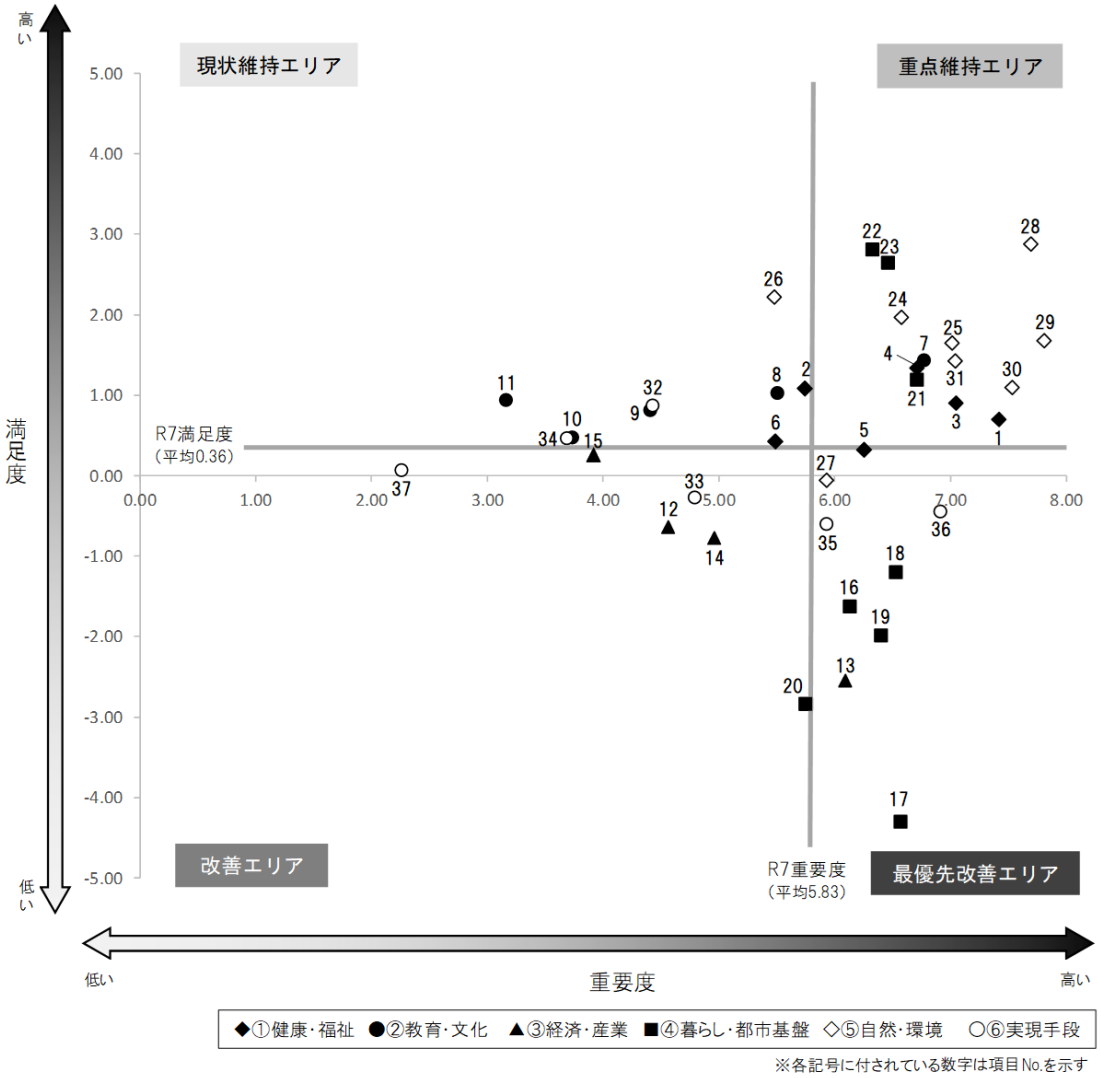
■効果的な人口増加策〈地区別〉



（４）取組の評価

第６次総合計画において松田町が取り組んでいるまちづくり（６つの分野）のうち、〈教育・文化〉〈自然・環境〉は比較的満足度が高いものの、〈暮らし・基盤〉では改善が求められる項目が多くなっています。

特に、〈経済・産業〉の「13. 商工業の振興」、〈暮らし・基盤〉の「17. 新松田駅・松田駅周辺の整備」や「19. 公共交通(バス・タクシー等)の充実」については最優先の改善が求められています。

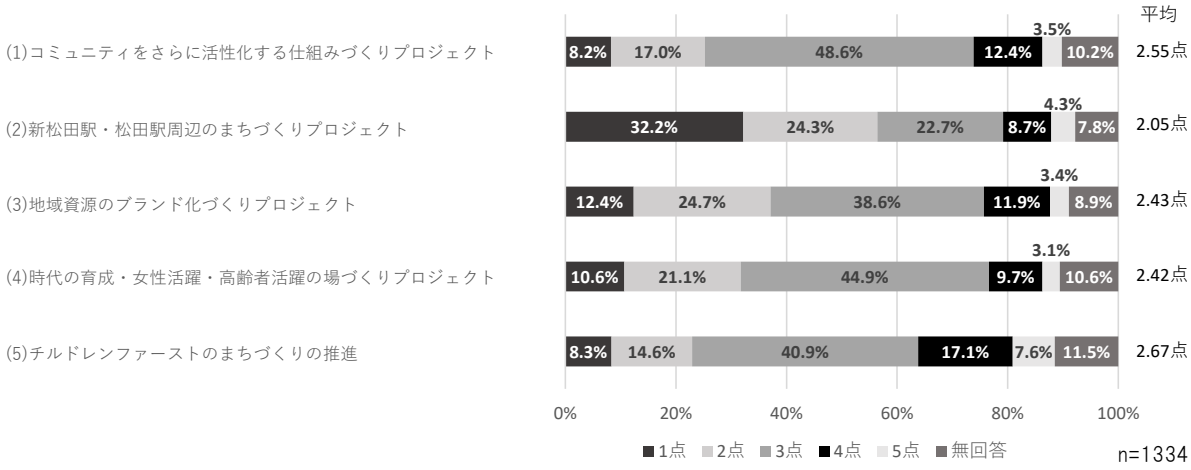


分野ごとの項目、評価は次のとおりです。

分野	No.	項目	R７
健康･福祉	1	健康づくりと地域の医療の充実	重点維持エリア
	2	地域福祉(地域での支え合い)の充実	現状維持エリア
	3	社会保障(介護･健康保険等)の充実	重点維持エリア
	4	児童福祉(子育て支援等)の充実	重点維持エリア
	5	高齢者福祉の充実	最優先改善エリア
	6	障害者福祉の充実	現状維持エリア
教育･文化	7	幼児教育と学校教育の充実	重点維持エリア
	8	青少年の健全育成	現状維持エリア
	9	生涯学習の充実	現状維持エリア
	10	地域文化の創造	現状維持エリア
	11	スポーツ･レクリエーションの充実	現状維持エリア
経済･産業	12	農林業の振興	改善エリア
	13	商工業の振興	最優先改善エリア
	14	観光の振興	改善エリア
	15	消費者トラブル等の未然防止	改善エリア
暮らし･ 都市基盤	16	土地利用の推進(都市化と自然環境保護の両立)	最優先改善エリア
	17	新松田駅･松田駅周辺の整備	最優先改善エリア
	18	骨格的道路網(国道･県道･幹線町道)と生活道路の整備	最優先改善エリア
	19	公共交通(バス･タクシー等)の充実	最優先改善エリア
	20	住宅整備･空き家対策等の充実	改善エリア
	21	ごみ処理対策の推進	重点維持エリア
	22	水道事業の推進	重点維持エリア
	23	下水道･生活排水施設整備	重点維持エリア
自然･環境	24	自然環境の保全･活用	重点維持エリア
	25	河川･砂防･治山の整備	重点維持エリア
	26	景観の保全･形成	現状維持エリア
	27	公園･緑地の整備･維持管理	最優先改善エリア
	28	消防･救急の充実	重点維持エリア
	29	防災対策の充実	重点維持エリア
	30	防犯対策の充実	重点維持エリア
	31	交通安全対策の充実	重点維持エリア
実現手段	32	地域コミュニティ活動と自治の育成	現状維持エリア
	33	オール松田で協働のまちづくり(町民･議会･行政の連携)	改善エリア
	34	人権･男女共同参画･女性活躍の推進	現状維持エリア
	35	効果的･効率的な行政経営	最優先改善エリア
	36	健全な財政運営	最優先改善エリア
	37	広域行政･国際交流(インバウンド･人材育成等)の推進	改善エリア

領域	説明
最優先改善エリア	重要性が高いものの、満足度が低い領域。最優先で改善が必要。
改善エリア	重要性が低く、満足度も低い領域。必要性が低いので最優先ではないものの、何らかの改善が必要。
重点維持エリア	重要性が高く、満足度も高い領域。現状は問題ないが、満足度が低下すると総合満足度も低下してしまうため満足度の水準を保つように注意が必要。
現状維持エリア	重要性が低い一方、満足度が高い領域。満足度は高いので現状を維持すれば十分。

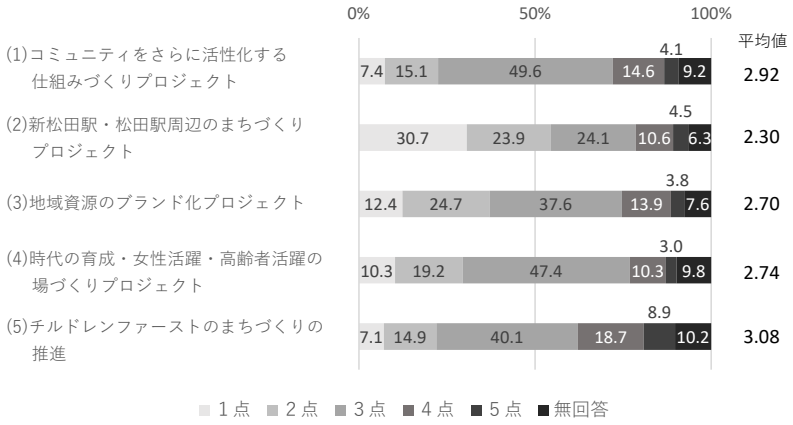
まちづくり戦略プロジェクトの評価としては、「チルドレンファーストのまちづくりの推進」については一定の評価が得られていることから、取組の効果を実感できる状態になりつつあるとともに、更なる期待が寄せられていると考えられます。



【松田地区】

松田地区では全体の結果と同様に「チルドレンファーストのまちづくりの推進」への評価が最も高く、次いで「コミュニティをさらに活性化する仕組みづくりプロジェクト」となっている一方、「新松田駅・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト」が最も低い評価となっています。

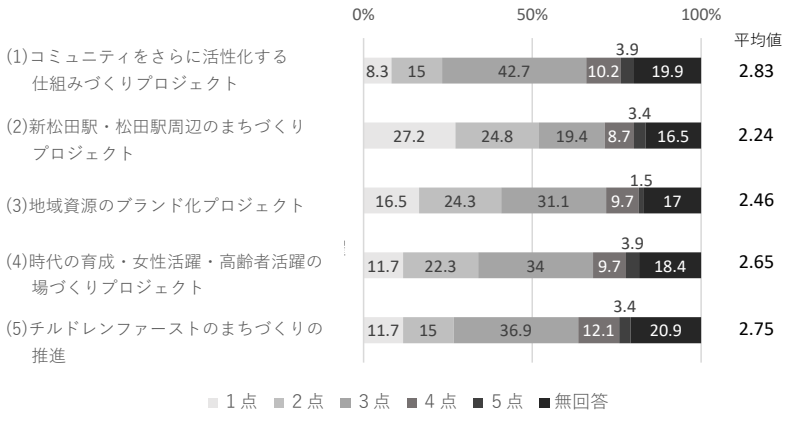
■まちづくり戦略プロジェクトの評価（松田地区）



【寄地区】

寄地区では「コミュニティをさらに活性化する仕組みづくりプロジェクト」への評価が最も高く、次いで「チルドレンファーストのまちづくりの推進」となっており、松田地区同様に「新松田駅・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト」が最も低い評価となっています。全体的に寄地区の方が平均値が低い結果となりました。

■まちづくり戦略プロジェクトの評価（寄地区）



【戦略プロジェクト】とは

まちの将来像の実現に向けて、部門横断的に取り組むべきまちづくり戦略をプロジェクトとし、令和８(2026)年度までの４年間で重点的に取り組む事業を位置づけたものです。

〈主な取組事業〉

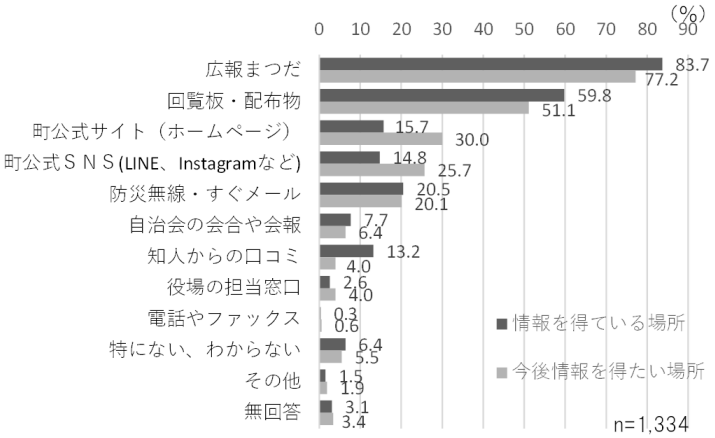
◎情報共有(広報・広聴活動)の推進・充実(実現手段)
◎新松田駅北口周辺整備の促進(暮らし・基盤)
◎新たな観光資源の創造・発掘・活用(経済・産業)
◎子育て世帯支援事業(健康・福祉)　等

（５）これからのまちづくり

情報発信について、現在情報を得ている場所、今後情報を得たい場所はともに「広報まつだ」が最も多く、次いで「回覧板・配布物」となっています。

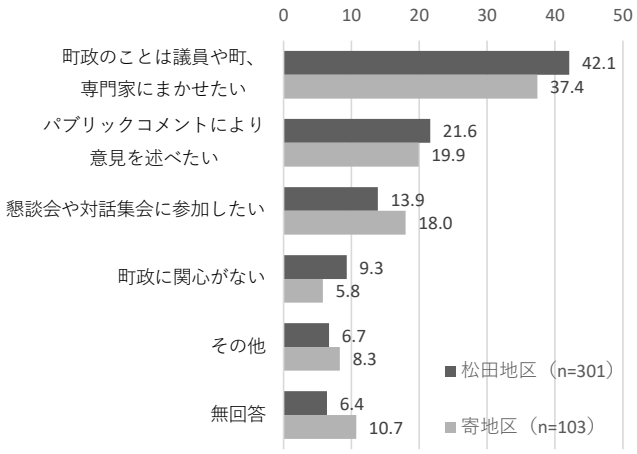
一方で、「町公式サイト（ホームページ）」、「町公式ＳＮＳ（LINE、Instagramなど）」について、今後情報を得たい場所の数値が現在情報を得ている場所の数値を上回っていることから、電子媒体における情報発信が求められています。

■情報の得方について



町政への関わり方について、「町政のこと専門家にまかせたい」と回答した人が最も多く、次いで「パブリックコメントにより意見を述べたい」となっています。また、年代が上がるほど懇談会や対話集会に参加したいと回答した人が増える傾向にあります。

■町政への関わり方〈地区別〉



【松田地区】

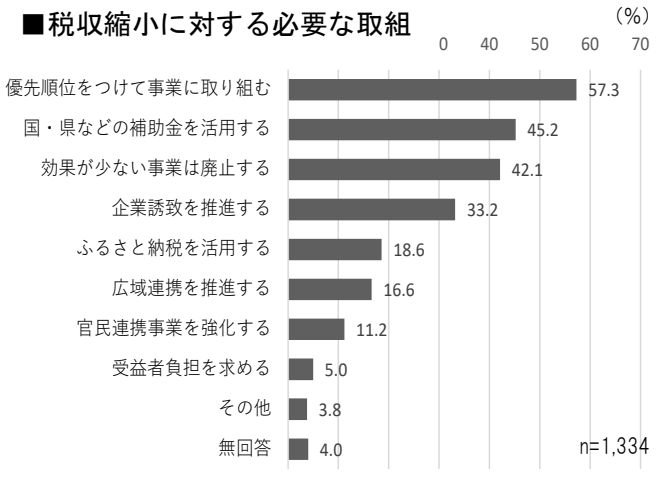
町政への関わり方について、「町政のことは議員や町、専門家にまかせたい」、「町政に関心がない」という意見が半数を占めており、町民の町政に対する関心が低い状態にあることがわかります。

【寄地区】

松田町と比較して、「懇談会や対話集会に参加したい」と回答した人が多く、対面での町民参加が望まれている傾向にあります。

税収縮小に対する必要な取組としては、「優先順位をつけて事業に取り組む」、「効果が少ない事業は廃止する」など的を絞った事業実施が求められているほか、「国・県などの補助金を活用する」、「企業誘致を推進する」、「ふるさと納税を活用する」など、不足する税収を補う視点も求められています。

■税収縮小に対する必要な取組



２．中学生アンケート・ワークショップ

（1）アンケート結果

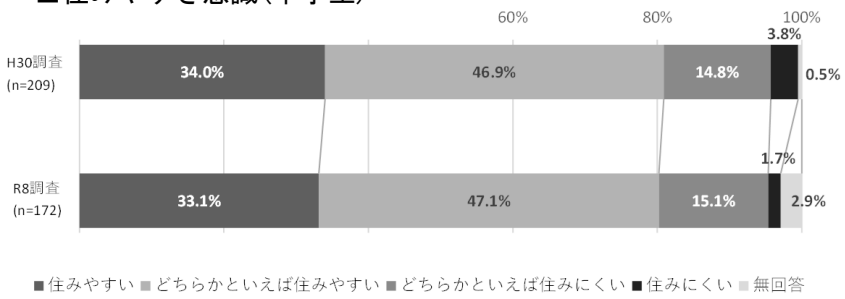
今回の総合計画策定では、次代を担う中学生の意見をお聞きするため、松田町立松田中学校の全校生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査対象	町立松田中学校全校生徒
調査時期	令和８(2026)年４月８日～４月 27 日
調査方法	ＵＲＬ及び二次元コードの送付による Web 回答
主な調査項目	回答者自身のことについて 今の松田町について 将来の松田町について
対象者数	172 名
有効回収表	167 名
回収率	97.1％

（住みやすさ意識）

松田町の住みやすさについて、町民アンケートを上回る８割が住みやすいと回答した一方、前回調査からは 0.7 ポイント減少しています。

■住みやすさ意識（中学生）



（まちの自慢・課題）

■松田町の自慢（自由記入）

１位　自然がある　…99 件
（自然が豊か、桜や景色が綺麗）

２位　交通が便利　…26 件
（駅が２つある、都心に出やすい）

３位　観光地・祭りがある　…24 件
（様々な祭りがあり、人が多く来る）

■松田町の課題（自由記入）

１位　買い物できる店が無い　…69 件
（日用品を歩いて買いに行けない）

２位　遊び場が少ない　…19 件
（皆で集まって遊べる場所が無い）

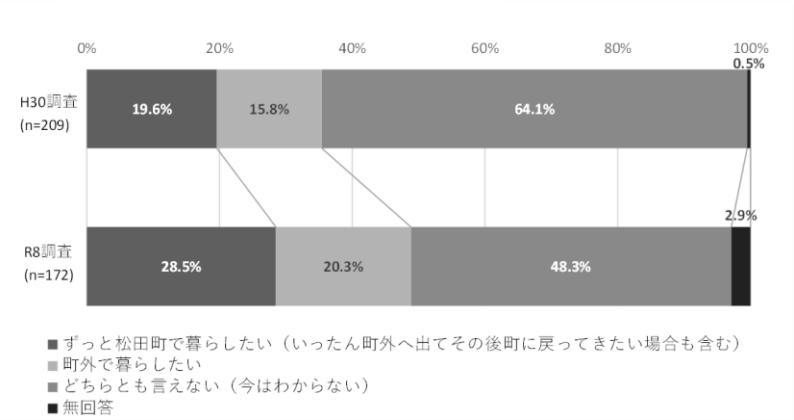
３位　商業・娯楽施設が無い　…11 件
（アミューズメント施設が無い）

（定住意向）

今後も松田町に住み続けたい人は約３割、町外で暮らしたい人は約２割となっています。

今後も住み続けたいと思えるまちであるためには、まちの課題である徒歩で買い物に行ける環境や、店舗の充実など、買い物の利便性を向上させることがもとめられています。

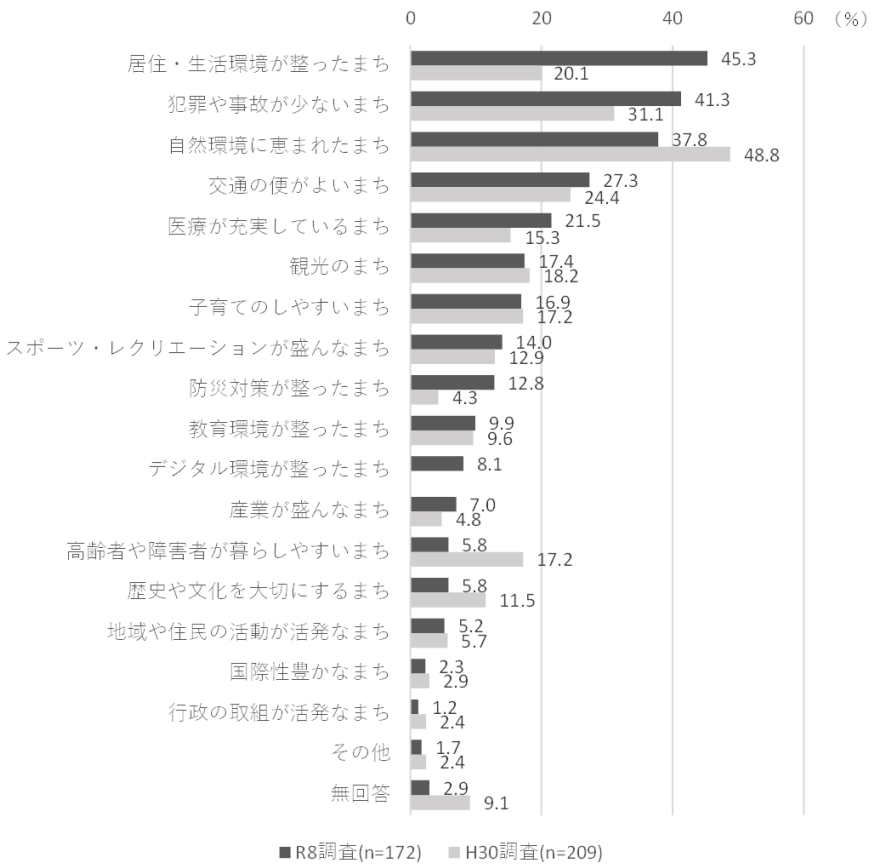
■定住意向（中学生）



（大人になっても住みたいと思える町の姿）

「居住・生活環境が整ったまち」が最も多く、次いで「犯罪や事故が少ないまち」、「自然環境に恵まれたまち」となっています。

H30 調査と比較すると「居住・生活環境が整ったまち」は 25.2 ポイントと大幅に増加しており、順位も３つ上昇していることから、将来住み続けるという視点において、日常生活における利便性の良さが重要視される傾向が強まっていることがわかります。



（2）ワークショップ結果

「中学生から見た松田町の印象」や、「将来どのようなまちになっていてほしいか」という点について把握することを目的とし、令和８(2026)年５月 13 日に、松田町立松田中学校３年生によるワークショップを実施しました。

アイデア出しと整理を生徒たちが自らできるよう、模造紙と付箋紙を使用し、「思わず住みたくなる！８年後の松田町」をテーマに、松田町が目指すべき姿のキャッチフレーズを検討するグループワークを行いました。

【各班の考えたキャッチフレーズ】

〇Ａ組

- START UP ～a town full of fun, in harmony with nature. 自然と共に楽しさ溢れる町を。
- 自然豊かで美しい環境をみんなで守り、住みやすいまちへ
- 自然と笑顔に松田町
- 色どり豊かな自然と共に進むにぎやかな町
- 想いや仲間とのつながりで未来をカタチにできる松田町

〇Ｂ組

- 笑顔あふれる明るいふるさと
- 活気あふれる笑みの町
- 交通が発展していて挑戦がしやすい松田町
- 自然をけずり、ジンコウ(人口・人工)増やす Matsuda town.
- みんなが輝く　元気町

【カテゴリ別の主な単語】

カテゴリ		単語
健康・福祉		健康、子育て
教育・文化		子供、高校、教育、郷土愛、祭
経済・産業		栄える、おいしい、お店、飯
暮らし・基盤		生活、交通、便利、施設、道路、駅、都会、暮らしやすい、住みやすい、過ごしやすい、
自然・環境		安心、安全、交通安全、治安がいい、のどか、きれい、キレイ、美しい、公園、自然、山、山けずる、緑、桜、川、風、虫、生き物、環境、景色
協働		交流、協力、人とのつながり、コミュニケーション
全体	人・つながり	人、みんな、自分、仲間、友、老若男女、十人十色、人口、ともに、仲良し、アットホーム、つながる、つながり、愛される、あいさつ
	優しさ	心、思いやり、気遣い、優しい、あたたかい、幸せ、信じる、平和、思い出
	活発さ	笑顔、笑み、おもしろい、明るい、にぎやか、楽しい、わくわく、活発な、活気、元気、あふれる、にぎわう、全力、fun!!、enjoy!
	未来・輝き	明日、新しい、未来、希望、START、レベル UP、進化、進む、カタチ、光、輝く、キラキラ、豊か、いろとりどり、あざやか
	まち	ふるさと、故郷、まち、松田町、松田推し、We love Matsuda

３．団体・企業アンケート

松田町第７次総合計画は、町民との協働・連携協力のまちづくりを実現するための最上位計画として位置づけ、その政策を町民や団体と共有し、ともにまちづくりを推進するための計画としていくため、町内で積極的に活動しているまちづくり団体を対象として、活動の現状や課題、今後の活動意向・展望等を把握するためのアンケートを実施しました。

（１）実施概要

調査時期	令和８(2026)年４月
主な調査項目	団体の概要 計画期間内における変化 活動団体の悩み・課題 今後の活動に向けた展望 課題解決のために必要な支援 施策の改善・新たなアイデア 町や地域の問題点 今後のまちづくりに関する取組・アイデア
調査対象団体	【健康・福祉】 松田町健康づくり普及員・母子保健推進員、食育ボランティアはるみ、民生委員児童委員協議会(松田地区)、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会、サンライズキッズなのはな保育園、子育て支援センター、ファミリー・サポート松田、シニアクラブ松田、松田町シルバー人材センター、松田いきいき元気の会、グループホームみやまの里、セントケアホームあしがら、まこさんち松田、松田町身体障害者福祉協会、特定非営利法人 KOMNY すみれの家、コスモス学園松田センター 【教育・文化】 松田幼稚園、寄幼稚園、松田小学校、寄小学校、松田中学校、松幼会、松田小学校 PTA、寄小学校 PTA、松田中学校 PTA、青少年指導員会、松田町更生保護女性会、松田町保護司会、文化財保護委員会、大名行列保存会、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブ 【経済・産業】 森林組合、松田町農業委員会、松田町鳥獣被害対策実施隊、商工振興会 商工青年会、ハローワーク松田、一般社団法人松田町観光協会、寄地区振興協議会、株式会社 DASI、TUDOI 合同会社、有限会社みやまの里、宇津茂ロウバイ部会 【暮らし・基盤】 小田急電鉄株式会社、秦野駅、松田駅、富士急モビリティ株式会社 【自然・環境】 環境美化推進委員、エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議、

	小田原市消防本部、松田町消防団、松田警察署、松田町交通指導隊、防犯ボランティア 【実現手段】 自治会、グローキーアップ株式会社 【包括連携協定事業者】 ＮＰＯ法人　アシガラパートナーズ、株式会社コヤワタオフィス、株式会社分子生理化学研究所、三井住友海上火災保険株式会社、ALSOK 株式会社

（２）主な調査結果

【健康・福祉】

（課題解決のために必要な支援について）

・児童委員活動への支援。
・新規のイベント等を実施するための予算確保。
・建物・施設の老朽化に対し、できる限り対応していきたいが、費用が掛かってしまう。補助金があると運営がスムーズになる。
・地域の高齢者居場所づくり活動団体ふれあい会「地域の茶の間」への助成支援。ふれあい会に助成している自治会負担軽減や、高齢者の活動体制となるのではないか。
・会員数の増加について、町福祉課等と連携し、当会の周知及び勧誘を行っていただきたい。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

・民生委員の欠員解消。
・地域の関係団体等と連携したイベントの実施を通じて、地域での知名度を上げる、地域に応援団をつくる取り組みを進めたい。
・夏の猛暑の中での草刈りや除草作業は高齢者にとって適正な就業環境とは言えない。高齢者が就業しやすい仕事を増やしていきたい。

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

・生涯学習推進課や町登録の活動団体及び社協の福祉ボランティアも含めた一覧表の作成などの情報発信。
・若い世代(中高生も含めて)の意見も必要である。
・地域住民の方々だけでなく、町内で働く方々も含めた認知症への理解促進や、世代を超えた交流の機会が広がることが重要。

【教育・文化】

（課題解決のために必要な支援について）

・ＩＣＴ教育の質的向上のため、教諭一人一台の端末環境を整備し、より円滑な指導体制を構築していただきたい。
・所管課を超えた団体間の協力体制があると「子ども達のため」の活動が広がる。
・町の財産である大名行列(奴ぶり)を絶やすことなく次世代に継承していくための活動や情報発信、活動環境の整備について支援していただきたい。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

・「地域とともにある学校づくり」の推進やＩＣＴの活用により、教育活動の充実を図る。
・松田町の人・事・物・場を活かし、松田町のスポーツコミュニティを現代の暮らしに合う形で発展させたい。

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

・町の防災、ごみ対策、ＳＤＧｓの取組、町議会の仕組みなどについて、行政担当者等がゲストティーチャーとして直接語りかける機会を設けていただきたい。それにより、子ども達がより松田町を身近に感じ、郷土愛を育むことにつながる。
・様々な枠にとらわれない協力体制の確立が必要。
・地域に新たな雇用を生み出す取組として、山の活用、河原を活用したキャンプ・水遊び・カフェ・ランニング施設の整備など、地域資源を活かした魅力創出を進めたい。

【経済・産業】

（課題解決のために必要な支援について）

・地理的に不利な農地のほ場整備や担い手誘致等に対する予算・人材の確保をお願いしたい。
・事業者に直接影響のある支援をお願いしたい。
・ＤＸ化に向けたシステム導入の補助支援をお願いしたい。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

・他団体との連携強化は必要。
・利き酒バルは今後地域活性のきっかけになると予想している。
・地域資源（鹿、イノシシなど）を活用した訪日外国人向けジビエツアーの造成。

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

・有害獣駆除活動に対する理解醸成を促すため町の広報等で周知。
・新松田駅前開発と共に町外から人を呼び込む。観光事業などを行政と考えていきたい。
・町主催のマルシェや朝市などのイベントがあるといい。

【暮らし・基盤】

（課題解決のために必要な支援について）

・バスの運転士の採用策の支援。
・路線バスの利用促進、利用者増につながる支援。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

・バスの運転士の採用強化による輸送力増強。
・バスの利用客増による活動拡大を目指したい。

【自然・環境】

（課題解決のために必要な支援について）

・消防団員の確保支援。
・主要交差点への防犯カメラの設置。
・学校 PTA 等の学校関係者との連携強化による、登下校時の見守り強化。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

・自治会非加入者の増加等により、町のルールを知る機会が無い方による違反ごみの増加が懸念される。地域に応じた啓発機会を設けるなどの、きめ細やかな対策が必要。
・築 53 年と経年劣化の著しい小田原市消防本部足柄消防署松田分署の再整備に着手していく。
・著しく増加する救急出動件数への対応体制確保のため、より効果的かつ効率的な運用方法について検討を進める。
・犯罪抑止に向けた広報啓発活動の拡大。

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

・実態のあるエネルギー基本データの作成を支援したい。
・昼間子供の帰宅時に行っている広報に、事故防止の注意喚起を入れて欲しい。

【実現手段】

（課題解決のために必要な支援について）

・地域におけるＩＴ人材確保への支援。
・活動内容に応じたメリハリのある助成金。予算の増加。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

・各種行事活動は拡大や現状維持が望ましいが、減少が懸念される。自治会だけでの運営が難しいので、団体と連携して行事を拡充したい。
・子育て世帯における子供や親御さんが自治会行事に参加できるような支援。
・自治会活動に関心を持ち、参加してもらえる様な施策。

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

・フレイル・身体測定結果の周知のみならず、測定値が標準値以下の方について、日常生活で容易に取り組むことができる身体機能の改善方法の教示。
・デジタルツールの活用や、身体機能の向上改善者への褒賞品の贈呈制度。

４．タウンミーティング

（１）実施概要

令和７(2025)年６月から８月にかけて、松田町内の全自治会を対象に、松田町で生活している中での困りごとや将来への想いについて、より多くの町民の具体的な意見を直接把握することを目的とし、実施しました。

	日時	会場	対象自治会
1	6/22（日）10時00分～12時00分	城山地域集会施設	城山
2	6/22（日）13時30分～15時00分	役場庁舎１AB会議室	中央・仲町・新松田
3	7/5 （土）10時00分～12時00分	神山地域集会施設	神山
4	7/5 （土）14時00分～16時00分	店屋場地域集会施設	店屋場
5	7/6 （日）10時00分～12時00分	沢尻地域集会施設	中沢・沢尻・宮前
6	7/6 （日）14時00分～16時00分	河内児童センター	河内・中丸
7	7/12（土）10時00分～12時00分	茶屋地域集会施設	茶屋
8	7/12（土）14時00分～16時00分	仲町屋地域集会施設	仲町屋
9	7/26（土）10時00分～12時00分	かなん沢・中里地域集会施設	谷戸・谷津・かなん沢・中里
10	7/26（土）13時30分～16時30分	町屋地域集会施設	町屋
11	7/27（日）10時00分～12時00分	虫沢地域集会施設	虫沢田代
12	7/27（日）14時00分～16時00分	弥勒寺地域集会施設	弥勒寺
13	8/9 （土）14時00分～16時00分	宇津茂地域集会施設	宇津茂・中山・土佐原・大寺宮地
14	8/9 （土）19時00分～21時00分	湯の沢児童センター	湯の沢
15	8/10（日）10時00分～12時00分	萱沼地域集会施設	萱沼

（2）主な調査結果

〈地域での困りごと〉

・「道路の整備や渋滞の解消」「歩いて買い物に行くことができない不便さ」「防災の必要性」はほぼ全ての地域において話題に上がりました。

・松田地区と寄地区ともに空き家に関する意見が多く、手入れの必要性や活用を望む声が多く見受けられます。

・自治会に関する意見からは、自治会の存続が危ぶまれており、地域内における交流が、希薄化してきているということがわかります。

・少子高齢化を懸念する意見も多く、特に寄地区においてはすべての地域において話題に上がりました。

■主な意見

健康	・上病院では受診内容によって対応してもらえないことがある。 ・一人暮らしの高齢者の生活が心配。 ・子どもと親が集える施設が近くに無い。
安全	・寄地区は災害時に孤立してしまう可能性がある。 ・避難場所を知らない人が多い。防災イベントの参加者も少ない。
生活環境	・町内にスーパーが無い。車が無いと買い物難民になってしまう。 ・道路に凸凹やヒビがある。騒音や手押しカートの使いづらさの原因である。 ・自治会以外の方の不法投棄が多い。自治会で対応できない。 ・救急車が入れない狭小道路がある。 ・空き家が多く、管理されずに草木が伸びている。
駅前	・新松田駅南口にエレベーターが無い。 ・駅周辺に休憩できるところや広場が無い。
観光・ にぎわい	・楽しいイベントが少なく、実行できる人もいない。 ・ハイキングコースにトイレが無い等観光客受け入れ態勢が不十分。
自治会・ 地域活動	・新規自治会員、ボランティア団体の役員、民選委員などの確保が困難。 ・多世代・松田と寄・近隣同士などと交流できるイベントが少ない。地域の行事の維持もできない。 ・町に活気が無い。住民の高齢化と若者の流出。 ・世代間にギャップがあるように感じる。 ・どんな人たちがまちにいるのか全然知らない。
行財政	・ホームページがわかりにくい。 ・使った税金の効果が見えにくい。

〈将来も住み続けたいと思えるまちにするには〉

・子どもがのびのびと成長できて、子育てがしやすく、高齢者も安心して過ごせる、多世代にとって暮らしやすいまちが望まれています。

・様々な人と人のつながり（近所・高齢者と若い世代・松田地区と寄地区・新旧住民等）を重要視する意見が多く、コミュニケーションを取ることで、孤立や伝統の途絶えを防ぎ、安全であたたかいまちにしていけるという考えが見受けられます。

・地域の観光資源や魅力として自然（松田山・川・滝 等）・お祭りなどが挙げられており、これらの良さを広めるための、より効果的なＰＲが求められています。

■主な意見

多世代にとって魅力的	・子どもが大人になったときに帰りたくなるような思い出を作る。 ・住民の事業支援。特に若い世代がここで仕事したいと思えるように。 ・広々としていて、いろんな世代が楽しく過ごせる公園があると良い。 ・女性活躍の場がもっとあると良い。 ・高齢者の生きがいを大切にし、活躍できるまち。
安心	・共働きでも安心して子どもをあずけておく場所がある。 ・独り身の高齢者が安心できるシステム。 ・災害が起こった時の避難所が複数個所ある。
便利	・徒歩圏に買い物できる場所がある。 ・秦野等周辺地域への交通網の整備。 ・各種申請や相談がオンラインでできる。 ・町内を循環するバスがあり、車なしでどこでも行ける。
にぎわい	・若い世代に住んでもらうために駅前開発は欠かせない。 ・活気のある商店街をつくる。町外の人にも働きかける。 ・今ある資源を最大限活かしたまちづくり。ＰＲも重要。
こころ豊かで楽しい暮らし	・音楽・芸術が楽しめる文化的なまち。生涯学習センターの活用。 ・屋根付きベンチなど途中で休むために立ち寄れる場所がある。 ・緑や花があふれるまち。 ・中津川の河川敷が自由には入れるようになり、自然を楽しめる。
移住大歓迎	・地域ぐるみで転入者ウェルカムの姿勢を見せる。 ・空き家を町で買い上げて、移住者に貸し出す。
地域のつながり・集い・交流	・自治会内のほとんどが顔見知りになること。 ・幼稚園、小学校の図書館を開放し、子どもと親の集える場を充実。 ・多世代の交流。若い世代が地域の閉塞感に悩まない自由なまち。 ・みんな顔見知りで茶飲み仲間。孤立しない環境。 ・新旧住民が互いを尊重し合い、それぞれの特徴を活かして暮らせる。

第２編　基本構想

第１章　まちづくりの基本的な考え方

少子高齢化による人口減少や、価値観の多様化といった刻々と変化する社会情勢や町の状況を踏まえ、これからのまちづくりは次の３つを基本的な考え方として推進していきます。

（１）みんなが主役のまちづくり

まちづくりの主役は、ここに暮らす町民一人ひとりです。まちに関わる全ての人がまちづくりを自分事として捉え、町民、地域、事業者、行政がそれぞれの役割を担い、対等な立場で連携・協力しながら、共に考え行動し、町民主体の自治の確立を目指します。

自らが町政に参加するなど様々な活動への企画立案から参画の機会を広げ、互いを尊重・尊敬し合う心を持ちながら多様な世代や立場の声が活かすことで、みんなが主役のまちづくりを進めます。

（２）郷土愛を育み助け合うまちづくり

小さなまちだからこそ育まれる、人と人とのつながりや支え合いは、松田町の大きな強みです。人口減少や少子高齢化が進む厳しい状況においては、町民一人ひとりの力とまちづくりに対する高い意識が大切です。そのため、「松田町民憲章」を踏まえ、町の豊かな自然、歴史や文化を尊重し、町民が郷土愛や誇りを育むとともに、身近な地域において助け合い、誰もが安心して暮らし続けられる、温かいまちづくりを進めます。

（３）課題解決型のまちづくり

複雑化・多様化する町民のニーズに対応していくためには、選択と集中による効率的な行政運営や効果的なまちづくりが必要です。これまでも継続してきたからという前例踏襲的な考えを捨て、現在直面している課題一つひとつの原因を把握し改善するとともに、現状に満足せず、より良い未来に向けて解決すべき課題を先回りして見つけ出し、新たな取組にチャレンジすることで、より着実な状況改善へとつなげていく課題解決型のまちづくりを進めます。

松田町民憲章（1989 年５月 15 日制定）

1　恵まれた水と緑を大切にし、うるおいのあるまちをつくります。
1　豊かな人間性を育み、文化の香り高いまちをつくります。
1　健康な心とからだをきたえ、活力にあふれるまちをつくります。
1　郷土を愛し、平和に満ちた心のかよいあうまちをつくります。
1　たがいに助け合い、愛の輪が広がるまちをつくります。

第２章　松田町が目指す将来像

１．長期を見越した８年間で目指す将来像

いのち“育み”　未来へ“ツナグ”　進化“つづける”故郷 2.0

～チルドレンファーストのまちづくり～

先人から受け継いだ、酒匂川や川音川、中津川などの清流や丹沢系の山々が織りなす豊かな自然環境、足柄上地区全体の玄関口としての役割を担う交通環境、良好な居住環境により人々の暮らしを支える土地は、将来も引き継いでいくべきまちの財産です。

一方で、松田町では、少子高齢化による人口減少、自治会や地域イベントへの参加者減少、担い手不足、それに伴う地域内での関係性の希薄化、さらには福祉や商工業、公共インフラ等の分野における行政サービスの低下などが懸念されています。

このような状況の中で、本町は、若い世代が安心して子育てできること、高齢者が子や孫たちと一緒に安心して暮らせること、将来「ふるさとで暮らしたい」と思う子どもたちが増えることを目標に据えた、「チルドレンファーストのまちづくり」に取り組んでいます。

将来像として掲げる「いのち“育み”　未来へ“ツナグ”　進化“つづける”故郷 2.0」は、サブタイトルで示した「チルドレンファーストのまちづくり」で叶えられるまちの姿です。これにより、持続的に発展し、町民が安全・安心で豊かに暮らすことができるまちを目指します。

〇いのち“育み”

私たちが暮らすこの故郷には、先人たちが大切に育んできた土、木、山、川を始めとする自然の持つ「いのち」、そして、これまで築かれてきたまちの歴史が持つ「いのち」が息づいています。その「いのち」を感じながら、先人たちの想いを受け継ぎ、子どもから高齢者まで、すべての世代の「いのち」と暮らしをこれからも守り続けていくことが大切です。次代を担う子どもたちを地域全体で温かく「育み」ながら、誰もがかけがえのない存在として大切にされ、いのちが輝くまちを目指します。

〇未来へ“ツナグ”

先人たちが築いた歴史という「過去」があり、私たちが生きる「現在」があり、そしてこれから訪れる「未来」があります。松田町が育んできた歴史や文化、祭り、豊かな自然、暮らしを支えるまちの施設、人と人とのつながりやそこから生まれる多様な活動を、過去から現在へ、そして未来へとつないでいくために、今を生きる私たちが、次世代へより良い故郷を手渡す担い手となり、成長した子どもたちがここで暮らし、両親や祖父母と共に支え合い、見守り合って暮らせるまちを目指します。

○進化“つづける”故郷

人が増えることで町に活気が生まれ、商業や観光、まちづくりなど様々な分野へ賑わいが広まります。現状維持にとどまらず、自然の豊かさや人の温かさを保ちながら、過去から学び、変化を恐れずに常にチャレンジ精神を持ち、進化し続けるまちを目指します。

○チルドレンファーストのまちづくり

子どもと子育て世代が安心して暮らせるまちであることで、子育て世代が増え、子どもたちはのびのびと成長していきます。たとえ一度松田町を離れたとしても、「愛着のあるまちで子育てをしたい」とまた両親や祖父母の近くに戻ってきてもらえて、高齢者も安心して暮らすことができます。子どもが生まれたら、３世代、４世代で支え合い、見守り合えるあたたかいまちとなり、先人たちから受け継がれてきた歴史や文化も絶えず継承されていきます。こうして、人口が増え、まちに賑わいが生まれることで、より充実した機能を持つ、あらゆる世代の方にとって暮らしやすいまちとしてありつづけます。

このような全世代の幸福度を上げるサイクルによる魅力的なまちの姿は、新たな移住者を引き寄せる力となり、今後も松田町を支え続けます。

長期的な視点を持ちながらも、一日でも早くこの将来像を実現させるため、本計画期間においては、身近な課題と向き合い、その一つひとつを確実に解決していきます。

３．将来人口フレーム

【人口動向】

松田町の人口は平成７(1995)年の 13,270 人を境にして人口減少が続いており、令和７(2025)年には 10,058 人となっています。人口減少の要因としては、社会減と自然減による人口減少傾向の拡大、特に若年世代の流出超過と合計特殊出生率の低下が考えられます。

【第６次総合計画基本構想における将来人口の目標】

「松田町第６次総合計画基本構想(令和５(2023)年３月発行)」においては、令和８(2026)年の将来人口の目標を 10,400 人と設定していますが、現時点においては、目標を下回る見込みで推移しています。

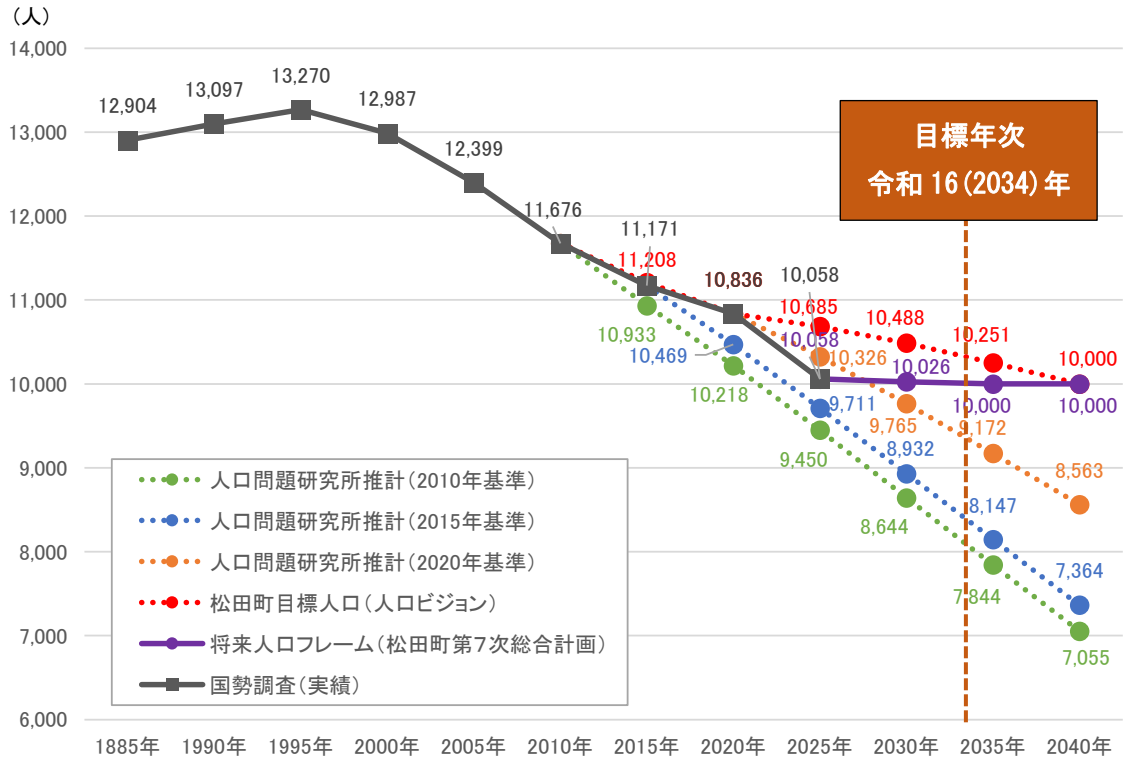
【まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョンにおける将来目標人口】

令和８(2026)年に策定した「町人口ビジョン」において、令和４(2020)年の人口(10,836人)を基準とした人口推計(人口問題研究所推計)では、令和 22(2040)年に 8,563 人まで減少することが予想されますが、合計特殊出生率の向上や社会減の抑制により令和 22(2040)年の目標人口を引き続き 10,000 人を目指すこととします。

【現状を踏まえた将来目標人口の設定】

令和７(2025)年の人口は 10,058 人となっており、人口ビジョンで設定した将来目標人口及び令和２(2020)年を基準とした人口問題研究所推計を下回る傾向で推移しています。今後は駅前開発やチルドレンファーストなどの人口減少対策に一層取り組むことで、令和 22(2040)年の将来目標人口 10,000 人を見据え、本計画の目標年次である令和 16(2034)年においては人口 10,000 人の人口維持を目標とします。

■将来目標人口



上記の検討を踏まえ、本計画においては、今後の各年の目標人口を以下のように設定します。

■将来目標人口の設定

	令和７(2025)年 (実績値)	令和 12(2030)年 (中間目標)	令和 16(2034)年 (最終目標)
将来目標人口	10,058 人	10,000 人	10,000 人

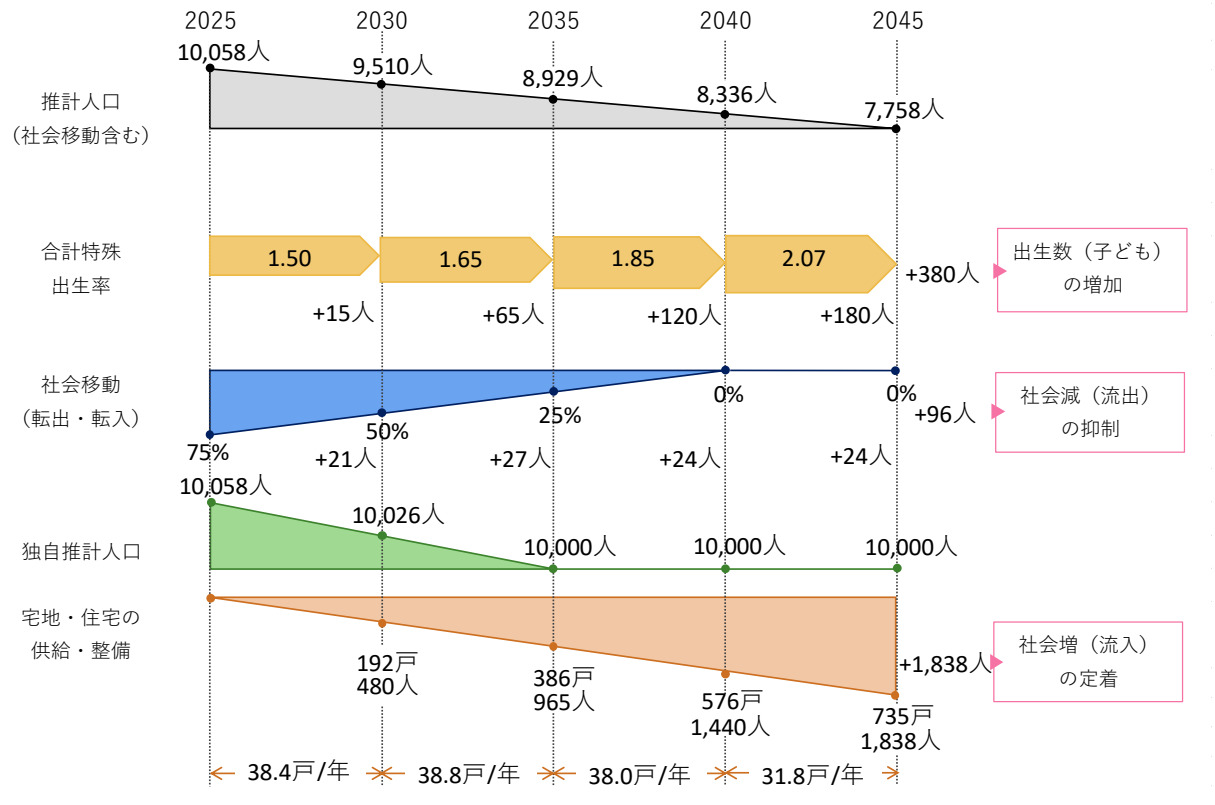
■年齢構成別将来目標人口

	令和７(2025)年	令和 12(2030)年	令和 16(2034)年	令和 22(2040)年
将来目標人口	10,058 人	10,026 人	10,000 人	10,000 人
0～14 歳	人	925 人	901 人	912 人
15～64 歳	人	5,374 人	5,230 人	5,022 人
65 歳以上	人	3,730 人	3,870 人	4,066 人

また、将来目標人口を達成するために、松田町まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョンに掲げる次のような施策等を展開します。

①合計特殊出生率を上げる方策
②推計人口で想定する社会移動(転出・転入)を±０にする方策
③新たな住宅・宅地の供給・整備や空き家の活用などによる定住人口を増やす方策

【参考】目標人口 10,000 人の政策展開のイメージ



第３章　基本目標

まちの将来像「いのち“育み”　未来へ“ツナグ”　進化“つづける”故郷 2.0」の実現に向けて、７つの柱(基本目標)を掲げて取り組むこととします。

なお、「７．みんなで協力し、みんなの力で育むまち(実現手段)」は、他の６つの柱を推進するための分野横断的な柱として位置付けます。

まちの将来像

いのち“育み”　未来へ“ツナグ”　進化“つづける”故郷 2.0

～チルドレンファーストのまちづくり～

１．質の高い学びで次代の担い手と文化を育むまち（教育・文化）

２．誰もが健康で思いやりのある暮らしを育むまち（健康・福祉）

３．備えと支え合いで安全・安心を育むまち（安全・安心）

４．持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまち（暮らし・基盤）

５．賑わいと雇用を生み出し、働きがいを育むまち（経済・産業）

６．自然と共生し、地球に優しい暮らしを育むまち（自然・環境）

７．みんなで協力し、みんなの力で育むまち(実現手段)

○各柱と人口増加の関係性

	人口増加				7．みんなで協力し、みんなの力を育むまち（実現手段）	
	自然増	自然減の抑制	社会増	社会減の抑制	担い手確保	関係人口増
1．質の高い学びで次代の担い手と文化を育むまち（教育・文化） ⇒子育て世帯の定住	◎	○	◎	◎	○	
2．誰もが健康で思いやりのある暮らしを育むまち（健康・福祉） ⇒産み育てやすさ	◎	◎	◎	◎		
3．備えと支え合いで安全・安心を育むまち（安全・安心） ⇒選ばれる理由づくり	○	○	◎	○	○	
4．持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまち（暮らし・基盤） ⇒移住・定住の受け皿	○	○	◎	◎		
5．賑わいと雇用を生み出し、働きがいを育むまち（経済・産業） ⇒雇用機会の充実	○	○	◎	◎		○
6．自然と共生し、地球に優しい暮らしを育むまち（自然・環境） ⇒自然を移住動機に	○	○	○	◎		○

自然増　　：生まれてくる子を増やす（安心して子育てできる環境を保つ）
自然減の抑制：亡くなる人を減らす（健康な人を増やす）
社会増　　：松田町に引っ越してくる人を増やす
社会減の抑制：松田町から引っ越しする人を減らす

◎：重要分野
○：関係分野

１．質の高い学びで次代の担い手と文化を育むまち（教育・文化）

子どもたちの教育環境を整え、地域と連携した松田町ならではの特色のある教育を推進します。さらに、町民一人ひとりが地域の歴史や文化に親しみ、芸術やスポーツを楽しみ、生涯学ぶことができる環境を構築することで、質の高い学びで次代の担い手と文化を育むまちを実現します。

【人口増加への寄与】

・魅力的な教育環境を整えることで、子育て世帯に「選ばれるまち」としての価値を高め、定住の促進につなげます。

・地域に根差した学びや体験を通じてふるさとへの愛着を育み、松田町で成長した子どもたちが将来もこのまちで暮らし、まちづくりを支える次代の担い手として未来へつないでいく、良好な循環を生み出します。

【チルドレンファーストの視点】

・松田町ならではの自然環境や地域資源を活かした質の高い教育を展開し、学習環境や文化施設の機能を高め、子どもたちの成長をまち全体で支えます。

２．誰もが健康で思いやりのある暮らしを育むまち（健康・福祉）

生涯にわたる健康づくりや病気を予防するための支援を充実するとともに、地域で支え合いお互いが安心して人生を歩むことができる地域づくりを進めます。さらに、子ども、子育て世代をはじめ、高齢者や障がい者を含むすべての人が自分らしく生き生きと暮らすことができるよう支援を広げ、誰もが健康で思いやりのある暮らしを育むまちを実現します。

【人口増加への寄与】

・安心して子どもを産み育てられる環境を整え、松田町ならではの強みとして磨き上げることで、子育て世代の定住を促進します。

・生涯にわたり健康で安心して暮らし続けられる体制を確立して人口の流出を防ぎ、親・子・孫の多世代が支え合い、見守り合える環境を構築することで、移住・定住の定着につなげます。

【チルドレンファーストの視点】

・充実した子育て支援により家庭の負担を軽減し、まち全体で子どもを温かく育むことで、安心できる暮らしや、子どもの健やかな成長を支えます。

・大人になっても親や祖父母の近くで支え合い見守り合える環境を整えることで、高齢者も含めたすべての世代の安心の暮らしを守ります。

３．備えと支え合いで安全・安心を育むまち（安全・安心）

緊急時や災害時にも町民の命を守るために即座に対応できるよう、体制を強化します。さらに、自らの命を自ら守れるよう、「自助・共助・公助・近所（近所同士の助け合い）」の考え方のもと、日頃から町民の意識を高め、いざというときに備えられる仕組みを整えることで、備えと支え合いで安全・安心を育むまちを実現します。

【人口増加への寄与】

・災害や事故・犯罪への備えを強化し、誰もが安心して暮らせる地域を築くことで、「安全・安心なまち」として移住・定住先に選ばれるまちを目指します。
・安全・安心を地域づくりの土台とした、安定した担い手の確保と地域で支え合う関係づくりをとおして、人口減少下でも持続可能な地域社会を未来へつなぎます。

【チルドレンファーストの視点】

・徹底した安全対策を講じ、子どもたちが事故や災害に巻き込まれず、安全にのびのびと生活できる環境を徹底し、将来もこのまちで暮らしたいと思える心を育みます。
・松田町で成長した子どもが大人になっても家族の近くに暮らし、いざというときに支え合い、見守り合うことで、安心して暮らすことができる安心のネットワークを地域全体で育みます。

４．持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまち（暮らし・基盤）

道路や水道、公共交通などの生活インフラを次世代へ引き継ぐために維持・整備を進めるとともに、新松田駅・松田駅周辺の整備を推進し、賑わいの創出と利便性を向上します。さらに、計画的な土地利用や空き家・空き地の有効活用を進め、町民の快適な生活を支える、持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまちを実現します。

【人口増加への寄与】

・誰もが暮らしやすい生活基盤を確立することで、若い世代の町外流出を防ぎ、「住み続けたい・住みたい」と思える魅力的なまちづくりを進めます。
・有効な土地や空き家・空き地の活用を進めることで、移住者・定住の受け皿を整え、社会増につなげます。

【チルドレンファーストの視点】

・子どもたちが日々の暮らしの中でまちの住みやすさを実感することで、大人になっても住み続けたいと思える意識を醸成します。

５．賑わいと雇用を生み出し、働きがいを育むまち（経済・産業）

商業施設の誘致や雇用機会の創出、新たな特産品の充実等により商業を発展させるとともに、豊かな自然環境を活かした農林業の振興を図ります。さらに、本町の誇る歴史や文化を活かした祭などの地域資源の磨き上げ、地域の魅力を向上させることで、賑わいと雇用を生み出し、働きがいのあるまちを実現します。

【人口増加への寄与】

・起業・創業支援や産業の振興を通じて町内に魅力ある「働く場・稼ぐ場」を創出し、若い世代の定住や、Ｕターン・Ｉターンによる人口増加につなげます。
・地域資源を活かした新たな観光コンテンツや特産品づくりにより、関係人口を拡大し、将来の移住希望者の裾野を広げます。

【チルドレンファーストの視点】

・まちの観光地や特産品に触れることで、子どもたちが「自慢ができるまち」として、ふるさとへの愛着を育みます。
・町内に魅力ある雇用の場を創ることで、成長した子どもたちが大人になっても松田町で暮らし、安心して住み続けられる環境が整っているまちを実現します。

６．自然と共生し、地球に優しい暮らしを育むまち（自然・環境）

子どもから高齢者まで誰もが憩いの場として利用できる公園の整備を進めるとともに、地球温暖化を防止するためにゼロカーボンシティを目指します。さらに、先人たちから受け継いだ豊かな自然環境を守り、継承していくことで、自然と共生し、地球に優しい暮らしを育むまちを実現します。

【人口増加への寄与】

・本町の強みである豊かな自然環境の保全・活用と魅力の向上により、自然を目的に訪れる関係人口や移住者の拡大につなげます。
・誰もが親しみ憩える良好な環境をつくることで、「住み続けたい」と感じられるまちづくりを進め、人口の流出を抑えます。

【チルドレンファーストの視点】

・先人たちが継承してきた豊かな自然に子ども達が日常的に触れることができる環境を創出し、実体験を通じた学びやふるさとへの愛着を育みます。
・誰もが安全で快適に遊べる公園等の環境を整備し、子どもや子育て世代の豊かな生活につなげます。

７．みんなで協力し、みんなの力を育むまち（実現手段）

地域コミュニティの持続的な活動や町民のまちづくりや町政への積極的な参加に向けた仕組みづくりを進めるとともに、計画的で効率的な行政運営や安定した財政基盤の維持を図ることで、誰もが互いを尊重し合いながら、町民・事業者・行政がそれぞれの力を活かすことができる、みんなで協力し、みんなの力を育むまちを実現します。

【人口増加への寄与】

・多世代が関わるコミュニティの形成を進め、一人ひとりが活躍できる環境を整えることで、人口減少下においても地域を支える担い手を確保します。
・町外の人材や関係人口も巻き込みながら、持続可能な地域運営を目指します。

【チルドレンファーストの視点】

・子どもや若者が地域のイベントに参加する機会を多く設けることで、地域住民との関係が深まり、大人になってからも、積極的にまちづくりや地域における活動に関わる習慣がつくことで、まちの主体者としての意識と社会性を育みます。

第３編　基本計画

施策体系

１．質の高い学びで次代の担い手と文化を育むまち（教育・文化）	１－１　学校教育と幼児教育
	１－２　青少年健全育成
	１－３　生涯学習
	１－４　地域文化の創造
	１－５　スポーツ・レクリエーション
２．誰もが健康で思いやりのある暮らしを育むまち（健康・福祉）	２－１　子ども・子育て支援
	２－２　健康づくりと地域医療
	２－３　地域福祉
	２－４　高齢者福祉
	２－５　障害者福祉
３．備えと支え合いで安全・安心を育むまち（安全・安心）	３－１　消防・救急・救命
	３－２　防災・減災対策
	３－３　防犯対策
	３－４　交通安全対策
	３－５　河川・砂防・治山
４．持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまち（暮らし・基盤）	４－１　土地利用
	４－２　新松田駅・松田駅周辺の整備
	４－３　骨格的道路網（国道・県道・幹線町道）と生活道路
	４－４　公共交通
	４－５　住宅対策
	４―６　生活環境
	４－７　水道事業
	４－８　生活排水処理
５．賑わいと雇用を生み出し、働きがいを育むまち（経済・産業）	５－１　農林業
	５－２　商工業
	５－３　観光
６．自然と共生し、地球に優しい暮らしを育むまち（自然・環境）	６－１　自然環境との共生
	６－２　公園
７．みんなで協力し、みんなの力を育むまち（実現手段）	７－１　地域コミュニティと自治の育成
	７－２　協働のまちづくり
	７－３　情報発信の推進
	７－４　人権・ジェンダー平等
	７－５　行政運営
	７－６　財政運営
	７－７　広域行政